

平成25年度研究・教育活動報告

【人間文化学科】

アーウィン マーク

(1) 研究成果

論文：

2013/11: 「紅花と河北町方言」, 「アジアの人びとの自然観をたどる」, 木部暢子・小松和彦・佐藤洋一郎 (編), 東京: 勉誠出版, pp. 185-192

発表：

2013/08: 「A Rendaku Database for Old Japanese」, 21st International Conference on Historical Linguistics, オスロ大学

2013/09: 「No English Spoken Here: The Prohibition on English in Japan 1940-45」, 1st European Association of Japanese Studies Japan Conference, 京都大学

2014/02: 「Rendaku Across Duplicate Moras」, 第9回音韻論フェスタ, 熱海市

(2) 教育, 地域連携等の活動

2013年度担当授業・ゼミ：

言語学演習, 基礎講義 (言語), 英語コミュニケーション (上級), 英語コミュニケーション (中級), コミュニケーションスキル I (英語)

出張講義：

大学等進学説明会, 新庄市南高校

(3) 研究・教育活動に関するコメント

相沢 直樹

(1) 研究成果

• エッセイ等

「うつりゆく「いのち短し, 恋せよ, 少女」— 『ゴンドラの唄』の可能性の考察 —」 < 『TASC MONTHLY』 No.453, 2013年9月

「命の短さ, 人生の長さ」 < 『日本近代文学館年誌 資料探索』 (第9号), 2014年3月

(2) 教育, 地域連携等の活動

• 担当授業科目

基盤教育：ロシア語 I, ロシア語 II

専門教育：欧米文化概論, 文化交流史, ロシア文化講読, ロシア語学演習

・講演

「『ゴンドラの唄』の誕生 — 劇中歌でたどる『その前夜』劇」2013年10月，牛込笹笥区民ホール（東京都新宿区）

浅野 明

(1) 研究成果・研究活動

- ・著作:監修 ロバート・B・ブルース他著／野下祥子訳『戦闘技術の歴史 ナポレオンの時代編』（創元社，4月）
- ・共著:高橋和他編『映像の中の冷戦後世界』（山形大学出版会，10月）。執筆部分:第2章「過去への回帰—歴史に問いかけるということ—」
学会報告等
- ・「歴史と文学の会」（早稲田大学）例会において，ロシアの農村派の文学とその歴史的背景について，研究報告をおこなった。(12月21日，於：早稲田大学理工学術院51号館，社会文化領域 メディア・ルーム)
- ・昨年度に引き続き，「パーリツィン研究会」の例会に参加した。(毎月1回，於：電気通信大学)

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・担当授業:西洋中世史入門（歴史学），西洋史概論（一），西洋史講義（一），西洋史演習（一），西洋史講読（一），社会の教材分析A

(3) 研究・教育活動に関するコメント

歴史学のみならず，文学や映像関係の諸研究にも接することができ，実りの多い1年であった。

阿部 晃士

(1) 研究成果

(論文)

- ・茅野恒秀・阿部晃士，2013年7月，「大船渡市における復興計画の策定過程と住民参加」，『社会学年報』，42, 31-42頁。

(2) 教育，地域連携等の活動

(担当授業)

- ・現代社会学演習，社会学概論，調査方法論，卒業論文（3名），意識調査から見る現代社会（基盤，社会学）（以上，山形大学）
- ・専門演習，地域調査実習Ⅰ，環境保健学，卒業論文（3名）（以上，岩手県立大学）
(地域連携)
- ・岩手県紫波町環境マイスター養成講座講師（2013年9月）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成25年4月に人文学部に着任し、山形大学での教育・研究に着手した。前任校での教育活動にも時間を割かざるを得ず、研究面では限られた時間のなかで調査を実施しデータを蓄積する1年となった。

新宮 学

(1) 研究成果等

- 編著：『近世東アジア比較都城史の諸相』全316頁（索引8頁）白帝社 2014年2月
論文：「近世東アジア比較都城史研究序説」3～14頁 同上所収
論文：「北京外城の出現——明嘉靖「重城」建設始末」159～193頁 同上所収
論文：「終戦直後、西川町間沢に滞在した橋田壽賀子のこと」『西村山地域史の研究』31号 77～93頁 2013年9月
雑纂：「漕運」岡本隆司編『中国経済史』41-42頁 名古屋大学出版会 2013年11月
事典：尾崎雄二郎等編『中国文化史大事典』「景山」「香山」「中南海」「北海」の4項目 大修館書店 2013年5月
事典：『岩波世界人名事典』「洪武帝」ほか38項目 岩波書店 2013年10月
海外調査：河南省洛陽・安陽等都城調査 2013年8月10日～8月20日

(2) 教育、地域貢献等の活動

- 当該年度における授業等（担当授業名）
〔学部〕東洋史概論（一）、東洋史講義（一）、東洋史演習（一）、東洋史講読（一）、文化環境学（一）、中国の歴史（歴史学）、マルコ・ポーロ『東方見聞録』を読む（教養セミナー）、現代社会の諸問題と共生の実現（共生を考える）1コマ担当、東洋史概論（一）（地域教育文化学部兼担）、卒業論文指導
〔大学院〕東アジア近世史特論Ⅱ 東アジア近世史特別演習 特別研究Ⅰ
- 地域貢献・学会活動
模擬講義：「『東洋』とアジア—近代的世界像の形成」2013年9月2日 宮城県多賀城高校
高校訪問：9月 会津若松市内の高校3校を訪問
教職免許状講習（高校地歴・中学社会）「東アジアからみた世界史」8月6日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動では、学術振興会の研究成果公開促進費（学術図書）の交付を受けて上記の編著を刊行した。また前年度に引き続き基盤研究（A）「比較史的観点からみた日本と東アジア諸国における都城制と都城に関する総括的研究」（研究代表者 橋本義則）の研究分担者として、共同研究を行った。

小白川図書館長として、図書館のfacebook立ち上げやビブリオバトルの開催など、図書館の教育機能の充実に務めた。

池田 光則

(2) 教育, 地域貢献等の活動

(a) 担当授業

- 学部専門教育科目：言語学概論（一）、言語学概論（二）、言語学演習、ラテン語初級
- 基盤教育科目：言語学概論（言語学）、言語学とその周辺領域（言語学）、英語
- 大学院：言語学特論、言語学特別演習

(b) 卒業論文指導テーマ

- 広告に関する語用論的研究—広告表現からの推論について—
- 国語教育の教材における文章構造について—説明文を題材として—
- 女性語・男性語のコミュニケーション機能—主にポライトネスの視点から— (c) 出張講義
- 「ことばの仕組みを考える—英語と日本語は似ているか?」（新潟県立三条高等学校。2013年12月6日）

伊藤 晶文

(1) 研究成果

[学術論文等]

伊藤晶文・小岩直人(2014):青森県五月女菴遺跡から得られた完新世の地形環境変遷に関する資料.
山形大学歴史・地理・人類学論集, 15,1-10.

小岩直人・葛西未央・伊藤晶文(2014):青森県十三湖における完新世の湖水成層化と地形環境.
第四紀研究, 53,21-34.

[学会発表]

伊藤晶文・小岩直人・榊原滋高(2013):青森県五月女菴遺跡周辺における完新世の地形環境変遷.
2013年5月. 2013年度東北地理学会春季学術大会.

松本秀明・佐々木弘太・伊藤晶文・熊谷真樹・遠藤大希(2013):仙台平野北部七北田川下流域
の潟湖埋積過程と土砂流入時期. 2013年9月. 2013年日本地理学会秋季学術大会.

小岩直人・葛西未央・伊藤晶文・松本秀明(2013):津波によって侵食された海浜地形の修復過程—
2011年東北地方太平洋沖地震津波による宮城県中部沿岸での事例—. 2013年9月. 2013年
日本地理学会秋季学術大会.

松本秀明・小林文恵・伊藤晶文・遠藤大希(2014):東松島市宮戸島の谷底堆積物から検出され
た過去4000年間の津波堆積物. 2014年3月. 2014年日本地理学会春季学術大会.

小岩直人・大高明史・葛西未央・伊藤晶文(2014):微地形分布から考察する砂嘴の形成プロセ
ス—タイ王国パカラン岬における2004年インド洋大津波後の事例—. 2014年3月. 2014年日
本地理学会春季学術大会.

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

(前期) 環境地理学概論, 環境地理学演習, 環境地理学調査実習, 地図を読む(教養セミナー)

(後期) 地図情報論, 地圏環境論演習, 都市地理学調査実習, 社会の教材分析 A, 自然地理学(地

理学)

[地域連携]

国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員 (東北地区)

山形仙台圏交流研究会への参加

2013-2014 国際ロータリー第2800地区 地区大会公開シンポジウム 講師

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究人生で初の海外調査(ペルー：ナスカ周辺，タイ：パカラン岬周辺)を実施した。海外調査による長期不在の際は，校務を代理で担当していただく等，多くの先生方のご厚意に甘えることになった。しっかりと成果を挙げるとともに，教育にも還元していきたい。

小熊 正久

(1) 研究成果

・論文

「中立性変様とその諸形態」(社会文化システム研究科紀要, H25.10)

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・担当授業科目：「ギリシア思想にみる自然観と人間観」(基幹科目)，「人間と世界」(基盤教育)，「西洋哲学史」，「哲学講義(二)：言語と意味について(フッサールとフレーゲ)」，「西洋哲学講読」(前・後)，「哲学演習」(後)，「ギリシア語」(前・後)。
- ・指導卒業論文テーマ：「フッサールにおける自己と他者～他者の類比的な統握の方法に対する考察～」，「『哲学と自然の鏡』におけるローティの視覚的メタファー批判」
- ・宮城県角田高校において出張講義を行う(H25.10)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- ・科研研究「表象媒体の哲学的研究—画像の像性と媒体性の研究を中心に—」の研究会を2回行った。充実した討論がなされた。

菊地 仁

(1) 研究成果

[論文]

- ・「見返る西行—伝承・絵画から和歌へ—」
(『西行学』, pp.32-45, 2013年8月)
- ・「東北地方の“髪長姫”と“玉取姫”」
(『國學院雑誌』, pp.124-137, 2013年11月)

(2) 教育，地域連携等の活動

[2013年度の担当授業]

・前期

人間を考える／日本文学概論 日本文学講読 人間文化入門総合講義（オムニバス）／日本古代中世文化特論

・後期

山形に学ぶ 遠い方言, 近い方言（オムニバス）／日本古典文学講義 日本文化講読 国語の教材分析A（オムニバス）／〔地域連携等〕

・放送大学公開講演会, 2013年8月11日

「日本昔話の国際性—こぶとり爺とさるかに合戦—」

・ゆうキャンパス・大学コンソーシアムやまがた, 2013年11月21日

やまがた夜話「鯰絵—表象としての大震災」

許 時嘉

(1) 研究成果

【論文】

- 「明治日本的漢詩文意識與殖民地統治：一個社會思想面的考察」, 『漢学研究』31期3号（台北：国家図書館）, pp.262-291, 2013年9月。
- 「殖民政權對臺灣民間自主性的放任與收編：以日治初期斷髮運動為例」, 『新史学』24-3（台北：新史学）, pp.53-94, 2013年09月。
- 「1900年植民地台湾の「揚文会」に潜む二つの虚文観——後藤新平と呉徳功をめぐって」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』10, pp 1-12, 2013年10月。
- 「〔資料紹介〕初山衣洲日記初探：日治初期在台日人社會與日台交流（1898-1904）」, 『台湾史研究』20期4号, pp.179-204, 2013年12月。

【招待講演】

- 「植民地台湾の断髮運動とその限界：公文書・新聞記事・日記史料を手がかりとして」, 南山大学アジア・太平洋研究センター主催講演会, 2013年11月18日

【総論（依頼原稿）】

- 「日本対台湾文学研究之概述」『2012台湾文学年鑑』, 国立台湾文学館, 2013年11月, pp.150-156。

(2) 教育・地域連携等の活動

基盤教育：初修中国語Ⅰ, 初修中国語Ⅱ

専門教育：比較文化概論（共同担当）, アジア文化演習, グローバル文化学基礎講義（共同担当）

「2013年度異文化間コミュニケーションⅠ」台湾引率分担（2013年8月31日～9月14日）

山形市立商業高等学校にて出張講義（2013年10月24日, 25日）

人文学部国際学術講演会「共振する東アジア3：サブカルチャーからみる日本と台湾の戦後」
コーディネーター

(3) 研究・教育活動に関するコメント

査読付き論文四本など研究、教育において大いに努力した。

清塚 邦彦

(1) 研究成果

(a) 研究業績

(論文)

- ・「ネルソン・グッドマンの贋作論：『芸術の言語』第3章の分析」、『山形大学紀要（人文科学）』、第18巻1号、(2014年2月)、1-39頁。

(b) その他の研究活動

日本科学哲学会 評議員

日本哲学会 『哲学』編集委員

(2) 教育、地域連携等の活動

(a) 担当授業

(基盤教育)

「哲学ってどんなこと? (哲学)」(前・後期)

(専門教育)

「基礎講義 (文化解釈学)」(後期), 「共生人間学 (二)」(後期), 「論理学概論」(前期), 「哲学概論」(後期), 「情報記号論」(後期), 「情報記号論演習」(前・後期)

卒論指導担当3名

(b) 出張講義

- ・2014年2月19日 楯岡高校キャリアアップセミナー模擬講義「機械と心：心の哲学への招待」

小泉 有紀子

(1) 研究成果

研究論文 (単) How do advanced learners of English understand a complex scope ambiguity? --a case of negation and focus construction-. IEICE Technical Report, Vol.113, No. 174. pp.111-115, 2013年7月

研究発表 (単)・大学共通英語におけるライティング授業の教育効果について:主観的・客観的尺度から. 全国英語教育学会第39回大会. 北星学園大学 2013年8月.

研究発表 (単)・Koizumi, Yukiko (Yamagata University). How do advanced learners of English understand a complex scope ambiguity? a case of negation and focus construction. Paper presented at the Workshop on Mental Architecture for Processing and Learning of Language (MAPLL) 関西学院大学 2013年8月.

研究発表 (単) The role of 'non-syntactic' factors in sentence processing: The case of the 'not-because' ambiguity. CUNY Graduate Center Prosody and Parsing Reading Group (招聘) 2013年3月

(2) 教育，地域連携等の活動

(担当授業) 英語コミュニケーション・英語リーディング (基盤教育)，実践英語 (一) (人文学部)，英語の教材分析 A (人文学部)

(その他)

山形県英語教育研究会 第65回東南置賜地区 中高英語弁論大会 審査員。

(3) 平成 25 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，英語教育と心理言語学の研究をすすめ，教育面では，実践英語 (一) での資格試験対策や，教職関係の授業を担当しました。人文学部での1年目は，充実した年となりました。

合田 陽祐

(1) 研究成果

著書 (共著)

1. « Jarry face à la censure théâtrale : À propos de la genèse textuelle d'*Ubu sur la butte* », in *Alfred Jarry du manuscrit à la typographie*, SAAJ & Du Lérot éditeur, Paris & Tusson, MMXIV, novembre 2014, pp. 27-47 (ISSN : 0750-9219) (「上演検閲を前にしてのジャリ——『丘の上のユビュ』のテキスト生成について——」, アルフレッド・ジャリ協会とフランス国立ランズ大学共催国際シンポジウム『アルフレッド・ジャリ, 自筆草稿からタイポグラフィまで』の議事録所収)。

論文 (査読有)

1. 「アルフレッド・ジャリの『砂時計覚書』を読む——イメージとテキストの関係を中心に——」『フランス語フランス文学』, 慶應義塾大学日吉紀要, 第59号, pp. 67-94, 2014年10月。
2. « “L'identité des contraires” selon Alfred Jarry : Réflexions sur la construction du personnage dans *César-Antechrist* et *Les Jours et les Nuits* », 『フランス語フランス文学研究』, 日本フランス語フランス文学会, 第105号, pp. 113-128, 2014年8月。
3. 「アルフレッド・ジャリによる科学的言説の受容について——『パタフィジック学者フォストロール博士の言行録』の場合——」, *Les Lettres françaises*, 上智大学フランス語フランス文学会, 第34号, pp. 29-40, 2014年7月。
4. « L'évolution des modèles théoriques de la Machine à Décerveler chez Alfred Jarry », 『フランス語フランス文学研究』, 日本フランス語フランス文学会, 第104号, pp. 103-118, 2014年3月。
5. 「催眠術師のオイディプス——アルフレッド・ジャリの『絶対の愛』再読——」, 『仏語・仏文学論集』, 上智大学文学部仏文学科紀要, 第48号, pp. 83-98, 2014年3月。
6. 「アルフレッド・ジャリの『昼と夜』におけるドン・キホーテの形象について——文学言説分析からのアプローチ——」, 『Lingua』, 上智大学言語教育研究センター, 第24号, pp. 21-36, 2014年3月。

発表

1. 「アルフレッド・ジャリの最初の「書物」——『砂時計覚書』を読む」, 日本マラルメ研究会

総会, 於お茶の水女子大学, 2014年5月24日。

2. « Une relecture génétique d'*Ubu sur la Butte* », Alfred Jarry, *Du manuscrit à la typographie*, Colloque international organisé par la Société des Amis d'Alfred Jarry et l'Université de Reims (Reims, France), 21 février 2014 (アルフレッド・ジャリ協会とフランス国立ランス大学共催国際シンポジウム『アルフレッド・ジャリ, 自筆草稿からタイポグラフィまで』におけるフランス語での口頭発表, 2014年2月21日)。

翻訳

1. アラン・ヴァイヤン著「マラルメあるいはパンドラの匣」, 『EBOK』, 神戸大学仏語仏文学研究会論集, 第26号, pp. 81-112, 2014年3月 (フランス語からの翻訳と解題)。

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業 (学内, 2014年度後期)

フランス文化論 (専門教育) (2単位), フランス語 II (医学部) (2単位), フランス語 II (法経政策学科) (2単位), フランス語 II (地域教育学部) (2単位), フランス語 II (工学部) (2単位)。

授業 (学外, 本学着任前2014年度前期)

フランス語中級 I (慶應義塾大学法学部) (2単位), フランス語中級 II (慶應義塾大学法学部) (2単位), フランス語初級 (慶應義塾大学経済学部) (4単位), フランス語中級 (慶應義塾大学経済学部) (2単位), フランス語初級 (上智大学言語教育研究センター) (2単位)

研修

1. フランス政府夏季教員研修 (フランス大使館給費), 於フランス・ブザンソン市, CLA, 2014年8月18日～8月28日。
2. フランス語教育国内スタージュ, 於アンスティチュ・フランセ東京, 2014年3月22日～3月25日。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2014年度前期の研究活動としては, 早稲田大学招聘研究員として, 科学研究費若手研究 (B) の課題研究「十九世紀末フランスの小雑誌に関する研究」の調査をおこなった。夏季休暇中には, フランス・パリ市に出張し, フランス国立図書館等で大規模な文献調査をおこなった。後期の研究活動として, 10月の本学着任後は, 引き続き科研費の課題研究である世紀末の小雑誌に関する論文の投稿準備と, アルフレッド・ジャリに関する単著研究書刊行のための作業を進めている。教育活動の面では, フランス語の発音矯正に力を注いでいる。すでに非常勤先で, CALL 教室を利用した授業に取り組んできたが, 現在では, 来年度からの CALL 教室使用に向けて, 山形大学の基盤教育の教室にインストールされている CALL ソフトの操作法を学んでいる。今年度は, 希望者に対し時間を設け, 個別の発音矯正を実施している。

坂井 正人

(1) 研究成果

[口頭発表]

1. Human Activities from the Late Paracas to Inca Period at the Pampa de Nasca, Southern Coast of Peru. (Sakai, Masato, Jorge Olano, Isao Akojima, Yoichi Watanabe, Kaoru Honda) , 78th Annual Meeting, Society for American Archaeology, Hawaii Convention Center, USA, 2013. 4. 6.
2. Impact of Past Climate Variability on Human Activities in Nasca, Peru. (Larry Lopez, Takayuki Omori, Masato Sakai, Giuseppe Orefici, Minoru Yoneda) , 78th Annual Meeting, Society for American Archaeology, Hawaii Convention Center, USA, 2013. 4. 6.
3. ナスカの地上絵周辺で確認された海産貝類. (黒住耐二, 坂井正人, 瀧上舞) 日本貝類学会, 豊橋市自然史博物館 (豊橋市), 2013. 4.21.
4. 「アンデス文明の興亡：ナスカの地上絵をめぐる環境と文明」立命館大学環太平洋文明研究センター創設記念シンポジウム (於：立命館大学衣笠キャンパス), 2013. 5.19.
5. Radiocarbon and Stable Isotope Analysis of Prosopis Pallida in Nazca. (Takayuki Omori, Larry Lopez, Minoru Yoneda, Fuyuki Tokanai, Kazuhiro Kato, Mai Takigami, Masato Sakai) , International Symposium: Absolute Chronology in the Central Andes, University of Warsaw, Poland, 2013. 9.26.
6. 「ナスカ社会と環境：2千年間の展開」(坂井正人・松本雄一) 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」第5回国際研究者集会, 2014. 2. 9.
7. Paisaje y Sociedades en los Valles del Río Grande de Nasca. (Masato Sakai y Jorge Olano) , Simposio Internacional: Desarrollo y Cambio en las Sociedades Prehispánicas de la Costa Sur del Perú. 国立民族学博物館, 2014. 2.16.
8. Nasca Project of Yamagata University. (Masato Sakai, Kaoru Honda, Tadasuke Monma, Junko Murakoshi) , Round Table Conference on Nasca, 2014. 山形大学, 2014. 2.20.
9. 「ナスカの地上絵と社会変化」山形大学人文学部国際学術講演会『ナスカとバルバの地上絵と社会：考古学研究の最前線』, 山形大学, 2014. 2.22.

[著書・論文・エッセイなど]

1. 「ナスカ地上絵研究の過去と現在」(坂井正人), 『ラテンアメリカ時報』1404, pp.20-22, 2013.
2. Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca (Cuarta Temporada) . (Masato Sakai, Jorge Olano) , pp. 1 -258, Ministerio de Cultura del Perú, Lima, 2013.
3. Centros de Líneas y Cerámica en las Pampas de Nasca, Perú, 2010. (Masato Sakai, Jorge Enrique Olano Canales, Yuichi Matsumoto, Hiraku Takahashi) , pp. 1 -267, Yamagata University Press, 2014.
4. 「先コロンブス期アメリカ大陸史に関する世界史教科書の記述はどう変わったか－新学習指導要領に沿って改訂された高等学校世界史教科書の検証」

『古代アメリカ』16:85-100。(2013年12月) (青山和夫・坂井正人・井上幸孝・井関睦美・長谷川悦男・嘉幡茂)

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]「文化人類学入門(文化論)」,「アンデス考古学入門(文化論)」,「比較地域研究概論」,「文化人類学・宗教史講義(二)」(言語人類学),「文化人類学・宗教史演習(二)」(現代社会と人類学),「文化人類学・宗教史演習(三)」(人と動物),「文化人類学・宗教史実習(二)」(ナスカの地上絵),「基礎講義(文化動態論)」,「大学院特論」,「大学院特別演習」,「教材開発のための先進研究」(山形大学教職大学院)

[卒業・修士論文] 【卒業論文】:「出羽庄内国際村・アマゾン民族館-「モノ」研究をめぐる-」,「アマゾンの狩猟用具」,「アマゾン・インディオの装身具」,「コンピュータ将棋-将棋における機械と人間の関係-」,「祭りの変容-田名部まつりを事例に-」,【修士論文】「ペルー南海岸ナスカ谷におけるセトルメント・パターン研究」

[地域・社会連携]

1. 「アンデスの地上絵: インカの首都クスコ, ナスカ台地をめぐる」三越トラベル(於: 野村コンファレンスプラザ日本橋) 2013年7月20日
2. 「ナスカの地上絵研究最前線: 山形大学プロジェクト成果」静岡県立富士東高等学校進路講演会(於: 富士市文化会館) 2013年10月23日
3. 「山形大学のナスカ地上絵研究」米澤工業会・千葉支部講演会(於ける: ホテルプラザ菜の花) 2013年10月26日
4. 「アンデスの地上絵: ナスカの地上絵を中心に」三越トラベル(於: 山形大学人文学部附属ナスカ研究) 2013年10月30日
5. 「世界遺産ナスカの地上絵: 山形大学の最近の研究より」河北町民大学ひなカレッジ(於: どんがホール) 2013年11月29日
6. 「山形大学のナスカ地上絵研究」FUJITSU ファミリー会(於: 山形グランドホテル) 2014年2月4日
7. 「ナスカの地上絵と古代アンデス文明」鳥取県立博物館, 2014年3月16日。
8. 「ナスカの地上絵とは?: 時期, 方法, 目的」一日山大生になろう! Part 2【ナスカの地上絵を描こう・つくろう】(於: 山形大学 SAITA センター) 2014年3月20日
9. 「山形大学ナスカ研究の現状と展望: 何をどこまで解明したのか?」エンドー共栄会(於: パレスグレンデール) 2014年3月26日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

「環太平洋の環境文明史」計画研究 A03「アンデス文明の盛衰と環境に関する学際的研究」(科学研究費補助金・新学術領域研究)によって, ナスカの地上絵に関する現地調査を実施した。この調査によって, ナスカ市街地のすぐ近くで17点のラクダ科動物と想定できる地上絵を発見した。また, ナスカ台地の地上絵と考古遺物に関して GIS に基づくデータベースを確立するとともに, これらのデータを用いて学術図書を出版することができた。

ナスカ社会に関する最先端の研究を展開している3名の外国人研究者（米国・ドイツ）を招聘して、国際シンポジウム「Simposio Internacional: Desarrollo y Cambio en las Sociedades Prehispánicas de la Costa Sur del Perú」、国際学術講演会「ナスカとパルパの地上絵と社会：考古学研究の最前線」、円卓会議「Round Table Conference on Nasca」を主催・共催することができた。

国際学術雑誌 *Peruvian Archaeology* を山形大学人文学部附属ナスカ研究所から発刊した。この雑誌の Editorial Advisory Board は日本人研究者だけでなく、アメリカ合衆国の大学教員（ジョンズ・ホプキンス大学、テュレーン大学、バデュー大学、テキサス州立大学、ルイジアナ州立大学）、ドイツ国立考古学研究所、先コロンブス期イタリア考古学研究センター、ペルー文化省などの研究者によって構成されている。今回掲載された査読論文は、イェール大、テュレーン大学・山形大の研究者によって投稿されたものである。

講義と演習では、世界の諸民族に関する事例を検討することで、文化人類学の基本的な考え方、民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。一方、実習では、南米ペルー共和国ナスカ市まで学部学生を連れて行き、現地で調査実習を行った。

佐藤 清人

(2) 教育，地域連携等の活動

公開講座 平成25年度公開講座「19世紀西洋思想の宝石箱」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究は日系アメリカ文学の研究を継続的に行った。

近年の関心はヨネ野口の作品である。専門教育ではやはり日系アメリカ人の歴史と文学について講義を行い、演習科目では英国作家の短編小説を精読した。基盤教育の英語では実践的、実用的な英語学習という観点から、授業を行った。

鈴木 亨

(1) 研究成果

論文

- ・「Think different の言語学—創造的逸脱表現を支える文法のしくみ」、『山形大学人文学部研究年報』第11号、69-86、2014年3月。

研究発表

- ・「結果構文における創造性と生産性」、日本英語学会第31回大会における研究発表（於福岡大学、2013年11月）。

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・担当授業：英語 C，英語 R，英語学特殊講義，英語学概論（二），実践英語（二），教職実践演習（英語），英語語法論特論，教員免許状更新講習（英語）

(3) 平成25年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、(1) 英語の結果構文の創造的使用例を認可する文法・意味解釈のしくみ、及び(2) 広告表現“Think different”の文法的逸脱性の背景について、研究を進めた。教育面では、複数の授業で時間外の課題として多読レポートを課し、学術面だけでなく多面的に英語力を養成することに努めた。

摂津 隆信

(1) 研究成果

口頭発表

「今日の科学技術の世界は演劇によって再現できるか」(ゲーテ自然科学の集い, 慶應義塾大学, 2014年2月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

特になし

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成25年度は非常勤講師として東京で仕事を行っていた。3つの大学を掛け持ちして授業を担当していたため、研究の時間があまり取れなかったことが反省材料である。今後は研究, 教育活動ともに充実させ、地域の役に立っていきたい。

高橋 真彦

(1) 研究成果

研究発表(単)

On nominative objects in Japanese. フィロロギア例会(第38回三重大学言語学コロキウム)三重大学 2013年6月.

Case-valuation and phase edges. 日本英語学会ワークショップ Foundational Issues in Phase Theory. 福岡大学 2013年11月.

研究論文(単)

Phases and the structure of NP: A comparative study of Japanese and Serbo-Croatian. Formal Approaches to Slavic Linguistics 21 (FASL 21) . 359-372. Slavica Publishers.

研究論文(共同)

LF intervention effects and nominative objects in Japanese. Proceedings of the 37th Penn Linguistic Colloquium (PLC 37) .101-110. University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics.

(2) 教育, 地域連携等の活動

前任校(三重大学共通教育センター)で1年生用の英語の授業(リーディング, コミュニケーション, TOEIC)を担当。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2014年10月に人文学部に着任致しました。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

千葉 清史

(1) 研究成果

(a) 研究業績

[論文]

1. “Précis of Kants Ontologie der raumzeitlichen Wirklichkeit: Versuch einer anti-realistischen Interpretation der Kritik der reinen Vernunft”, Transcendental Philosophy Research, Author Meets Critics Session, <http://tprcritique.wordpress.com>.

2. “Reply to Chris Onof”, *ibid.*

3. “Reply to Henny Blomme”, *ibid.*

4. 「直観主義数学の非時間的真理概念」, 『東北哲学会年報』第30号, pp. 1-14.

[研究発表]

1. 「直観主義数学の非時間的真理概念」, 東北哲学会第63回大会, 2013年10月.

2. 「『物自体は存在するか』という伝統的な問題の解決に寄せて」, 日本カント協会第38回学会, 2013年11月.

3. 「『純粋理性批判』第一版「第四パラロギスム」における超越論的観念論の間接的正当化」, カント研究会第276回例会, 2013年12月.

(2) 教育・地域連携等の活動

(a) 担当授業

[教養教育]

ドイツ語 IA 1, IIA 1 (人文・理学部向け, 前期&後期), ドイツ語 IA 2, IIA 2 (工学部向け, 前期&後期).

[専門教育] 哲学演習 (一) (前期), 哲学講義 (一) (後期).

(b) 地域貢献

山形大学公開講座 (人文学部) 『19世紀世紀西洋思想文化の宝石箱: ニーチェからコナン・ドイル, フェノロサまで』, 第二回「フリードリヒ・ニーチェ: 哲学的思考における徹底性の一つのかたち」担当, 2013年6月.

(3) 平成24年度の研究・教育活動に関するコメント

- 博士論文 (Kants Ontologie der raumzeitlichen Wirklichkeit, Walter de Gruyter, 2012) で論じた諸議論の深化・発展を試みた。この方針はこれからも続けていく予定である。
- 8月に3週間, 山形大学ナスカ研究所に滞在し, ナスカ研究の現状ならびにフィールドワークの実情を視察した。今後は考古学・人類学研究の科学哲学的分析を行っていく予定である。
- 今日の英語偏重の風潮の中で, あえてドイツ語を大学で学ぶことの意義はどこにあるのか——このことを学生に伝えられるようなドイツ語授業を目指した (が成果に関してはまだ満足のい

くものにはなっていない)。

- 哲学の授業では、参加者にともかくも哲学的議論を実際に行なってもらうことを主眼とした。

富澤 直人

(1) 研究成果

研究発表 (H25年11月)

"Complement clause selection and exceptional Case-marking" 日本英語学会第31回大会 (福岡大学)

論文 (H26年2月)

"Complement clause selection and exceptional Case-marking," JELS 31: Papers from the 31st Conference, 207-213.

(2) 教育, 地域連携等の活動

教育

学部 英語学概論, 英語学特殊講義, 人間文化入門総合講義, 卒論指導

大学院 現代外国語 (英語) II

基盤教育 英語 C, R

(3) 研究・教育活動に関するコメント

冨田 かおる

- (1) "Rhythm for oral readings" Bulletin of Yamagata University (humanities) 18: 1, 65-79.

- (2) 担当授業 英語学演習, 実践英語 (二), 英語 (R), 英語 (C)

- (3) 言語の生成を主なテーマとし, 特に発話の音響分析を基に, 英語母語話者と日本人英語学習者の母音特徴分析を行い, 母音空間の言語学習への応用について考察した。

中澤 信幸

(1) 研究成果

[著書]

- 『中近世日本における韻書受容の研究』, おうふう, 2013年9月

[論文]

- 日本語教育における「日台基本漢字」発音対照表の可能性について, 中澤信幸・岩城裕之・是澤範三, 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』10, pp.13-20, 2013年10月

[ポスター発表]

- Possibility of the Japanese-Taiwanese Fundamental Characters' Contrastive Phonetic Table with the Japanese Language Education, Nobuyuki NAKAZAWA, Hiroyuki IWAKI, Norimitsu

KORESAWA, 2nd International Conference on Vietnamese and Taiwanese Studies & 6th International Conference on Taiwanese Romanization, Center for Taiwanese Languages Testing NCKU (台湾・国立成功大学), 2013年5月18・19日

〔口頭発表〕

・日本語教育における台湾語音の活用, 台湾・銘傳大学2014年国際学術研討会「應用日語教育的理論與實踐」, 2014年3月14日

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

- ・学部専門科目: 日本語 (一), 日本語学特殊講義, 日本語学演習
- ・大学院科目: 日本語史特論Ⅱ, 日本語史特別演習
- ・基盤教育科目: 日本語と他の言語との共生 (共生を考える), 日本語の歴史 (言語学)

〔卒業論文〕

- ・謝罪・感謝表現の歴史的変遷
- ・英文学作品の日本語訳について —シェイクスピア作品を対象に—
- ・『古事記』の歌謡における万葉仮名の選択規則について

〔修士論文〕

- ・日本漢語と呉語・粵語・閩語における漢字音の対照研究 —『蒙求』掲出字を対象として—

〔地域連携〕

- ・小川尚義の著作に見る国語意識, 台湾・南臺科技大学応用日語系 (所) 2013年国際学術研討会「回顧與展望日本帝國統治下の國語教育與戰後的日語教育」專題演講, 2013年10月26日
- ・日本の高等教育の現状, 台湾・銘傳大学教育研究所 (大学院) 特別講義, 2013年11月18・19日
- ・台湾語と日本漢字音, 台湾・銘傳大学応用日語研究所 (大学院) 特別講義, 2013年12月3・4日
- ・台湾語と日本漢字音, 台湾・台湾大学日本語文学系碩士班 (大学院) 特別講義, 2014年3月11日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

十数年にわたるこれまでの研究成果を著書にまとめて出版した。また科学研究費 (基盤研究 (C), 研究課題名: 現代版「日台字音便覧」データベースの整備と「日台基本漢字」発音対照表の構築, 課題番号: 23520544, 研究期間: 平成23~25年度, 研究代表者: 中澤信幸) による研究成果を各所で発表した。加えて「YU海外研究グローイングアッププログラム」により, 9月から台湾・銘傳大学に滞在して研究を進めた。これに関連し, 台湾の各所で講演・特別授業などを行った。

中村 篤志

(1) 研究成果

〔論文〕

1, 「フルンボイル遊牧社会における地縁結合——Ya. シャーリーポー氏の口述に現れた“アイマク”をめぐって」『東北アジア研究』18, 2014年2月, pp.51-79

2, 「清朝宮廷におけるモンゴル王公——光緒9-10年乾清門行走日記の分析から」新宮学編著『近世東アジア比較都城史の諸相』白帝社, 2014年3月, pp.89-111

〔学会・研究会発表〕

1, 「モンゴル王公の年班・行走 ～光緒9年乾清門行走日記の分析から」東北アジア研究センター共同研究「近世・近代における内陸アジア遊牧民社会の構造的特質とその変容に関する研究」研究会 2013年6月1日 於：東北大学東北アジア研究センター

2, コメンテーター 北東アジア学会サテライト研究会2013年12月23日 於：日本大学法学部

(2) 教育・地域貢献等の活動

〔担当授業〕

東洋史講義(二), 東洋史概論(二), 東洋史演習(二), 東洋史講読(二), 基礎(文化動態論), 北アジア遊牧民の歴史(基盤・教養・歴史学), モンゴル語の歴史(基盤・教養セミナー), 北アジア史特論II(大学院), 北アジア史特別演習(大学院)

〔教育活動〕

1. 国際交流:人文学部異文化間コミュニケーションI in 台北のWGメンバーとして,企画・運営・現地引率を行った(参加33名)。国内では,説明会,計3回の事前学習会,帰国報告会の企画・運営,現地での引率を担った。現地学生と合同で主体的に街頭調査をさせる合同研究を,他の教員と共同で立案・実施した。

2. 人文学部国際交流講演会「モンゴルにおける仏教——その過去と現在」講演者:アルタンザヤール博士(モンゴル国立教育大学歴史科学部教授,東北大学東北アジア研究センター客員教授)を企画し,通訳を務めた。2013年7月10日 於山形大学人文学部。

3. 卒論指導:東洋史5名の卒業論文を指導した。

〔地域貢献活動〕

1. 出張講義:岩手県立盛岡北高等学校・大学模擬講義において講義(2013年6月20日)。

2. 出張講義:網走南が丘高校・出前講義において講義(2013年8月28日)。

(3) 平成25年度の研究,教育活動に関するコメント

・研究協力者を務めた科研費基盤研究B「近世東アジアの都城および都城制についての比較史的総合研究」(代表新宮学教授)の成果として『近世東アジア比較都城史の諸相』が刊行され,一編を執筆した。

・代表を務める基盤研究C「日記史料からみた清末のモンゴル王公と清朝支配」が採択され,本年度からスタートした。上記で考察した清末の宮廷空間におけるモンゴル王公の活動について継続・発展させていく予定である。

- 基盤研究 A (海外調査)「東北アジアにおける辺境地域社会再編と共生様態に関する歴史的・現在の研究」(代表:岡洋樹)の研究分担者として、清末から1930年代までの内モンゴル遊牧地域の基層社会について成果をまとめた。
- 教育面では主に国際交流が中心となった。台湾実習の企画・運営・引率のほか、講演会を企画し通訳を務めた。
- 学生の留学支援にも力を入れた。近3年、東洋史からは、北京林業大に2名、台湾銘傳大学に2名の留学生を送り出し、留学中も就活・卒論等の指導を行った。

中村 隆

(1) 平成25年度の研究成果

- 研究発表(シンポジウムパネリストとして):「ディケンズとメイヒューが描いた児童労働」(学会名:東北ロマン主義文学・文化研究会, 日時:平成25年7月25日, 場所:東北大学文学部)
- 書評:「Gillian Piggot, Dickens and Benjamin: Moments of Revelation (Ashgate, 2012) について」(『ディケンズ・フェロウシップ日本支部年報』第36号, 平成25年, 30-34頁)

(2) 平成25年度の教育, 地域連携等の活動

【教育】基盤教育について。基盤教育の英語(R)および(C)では、山形大学の学生ならば、ネット上で24時間アクセスが可能なALC NeAcady 2を予習と復習の基本教材とし、速読(R)とリスニング(C)の練習をした。また、グループワークによる音読、発話練習を繰り返し行い、ナチュラルな英語のリズムを身体で覚えることを重点課題とした。

学部の専門教育について。英米文学概論(一)では、18世紀と19世紀の英文学史を「散文」の特質という観点から論じた。英文学演習では、エッセイを1つの文学ジャンルとして扱い、現代英字新聞の文化的エッセイを語彙の獲得、英文法・構文の高度な理解を目標として、英語で精読した。暗記や音読にも積極的に取り組んだ。

【地域連携等】

平成24年度 山形大学公開講座[人文学部]「19世紀西洋思想文化の宝石箱 ニーチェからコナン・ドイル、フェロサまで」において、「コナン・ドイルという謎を解く」と題して講演した(平成25年6月13日)。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面について。ヘンリー・メイヒューとディケンズがともに描いた19世紀中葉のロンドンの「児童労働」を、「資本主義」と「センチメンタリズム」という2つの視点から捉え、ヴィクトリア朝の児童労働に関する新しい研究の可能性を検証した。それに際し、ディケンズの『オリヴァー・トウィスト』と『荒涼館』というフィクション、および、メイヒューの『ロンドンの貧民とロンドンの労働』というノンフィクションの詳細なテキスト分析を行った。

教育面について。基盤教育では、ALC NeAcady 2というコンピュータ利用の英語学習を効果的に取り込むことができた。特に、語学教育での復習の効用を理解させるために、復習課題を大幅に増加した。授業では、音読を繰り返し、英語の音を身体的なリズムにおいて発話するような

工夫をした。

専門教育においては、英米文学概論（一）に関しては、英語の散文の特色を論じるにあたって、具体的な作品からの原文の引用を積極的に行い、そのテキスト分析に取り組んだ。また、同概論では、毎回講義へのコメントを書かせるようにし、双方向の講義に努めた。英文学演習では、エッセイというジャンルを構造分析するとともに、語学教材として高度な語彙の定着をはかった。

中村 唯史

(1) 研究成果

[著書]

1. 『映像の中の冷戦後世界：ロシア・ドイツ・東欧研究とフィルム・アーカイブ』、共編著、山形大学出版会、2013年10月
2. 『ロシアの南：近代ロシア文化におけるヴォルガ下流域、ウクライナ、クリミア、コーカサス表象の研究』、編著、山形大学人文学部叢書5、2014年3月

[論文]

1. 「事実と記録のあいだ：ロシア/ソ連ドキュメンタリー映画をめぐる言説と実践について」、高橋和・中村唯史・山崎彰（編）『映像の中の冷戦後世界』（山形大学出版会）、11-26頁、2013年10月
2. 「マイトレーヤとレーニンのアジア：無国籍者レーリヒの世界図」、望月哲男編著『ユーラシア地域大国の文化表象』（ミネルヴァ書房）、198-223頁、2014年3月
3. 「地中海からアラギョーズへ：マンデリシタームの詩学とアルメニア」、中村唯史（編著）『ロシアの南：近代ロシア文化におけるヴォルガ下流域、ウクライナ、クリミア、コーカサス表象の研究』（山形大学人文学部叢書5）、129-184頁、2014年3月

[書評・エッセイ等]

1. 常なるものと無常とを対照的に捉える：ウリツカヤ『クコツキイの症例』書評、週刊読書人、2013年9月13日号、5頁
2. 著名な作家に新たな光：ロシア文学2013年回顧、週刊読書人、2013年12月20日号、6頁
3. ソチと南とロシア文学、ロシア文化通信「群」（群像社）、43号（2013年12月）、1-2頁
4. 山形新聞文化欄コラム「<ことばの杜>へ」：「鴻上尚史『デジャ・ヴュ '86』2013年4月27日」、「イワン・ツルゲーネフ『文通』同6月22日」、「小野十三郎『人造石油工場一つ』同8月17日」、「会田綱男『鹹湖』同10月12日」、「井上ひさし『イーハトーボの劇列車』同12月7日」、「小林秀雄『当麻』2014年2月8日」

(2) 教育、地域連携等の活動

[担当授業]

基盤教育：ロシア語Ⅰ、ロシア語Ⅱ、グローバル文化学入門

専門教育：表象文化講義、表象文化演習、基礎講義（グローバル文化学）、欧米文化概論、欧米文化演習、ロシア文化論、ロシア語学演習、ロシア文化講読

大学院：ロシア東欧文学特論Ⅱ、同特別演習

[指導卒業論文テーマ]

「マンガの背景論」, 「リアリティのありか」, 「SFにおける人工知能ロボット」, 「荒木飛呂彦『ジョジョの奇妙な冒険』物語考」, 「色彩考」, 「近代ロシアの女性をめぐる」

[地域連携等]

- 非常勤講師：宮城学院女子大学（表象文化論），北海道大学スラブ研究センター共同研究員，日本ロシア文学会大会組織委員・同実行委員，ロシア東欧学会編集委員，日本比較文学会東北支部幹事，「ロシア語ロシア文学」「スラヴ研究」誌査読
- 出張講義
 1. 北海学園札幌高等学校「芸術作品を考察するとは：文学とマンガを例に」（2013年5月28日）
 2. 山形県立高島高等学校「歌と映画とアニメから見るソ連社会」（2013年12月18日）
- 山形新聞「山新文学賞」選評担当（月1回）

- (3) 平成25年度の研究，教育活動に関するコメント
特になし

西上 勝

(1) 研究成果

[論文]

「二十世紀中国画家の「師心」と「師古」 — 齊白石と黄賓虹の比較を通じて」

『山形大学人文学部研究年報』第11号 平成26年3月 1頁～26頁

「周亮工の『讀画録』と『印人伝』について」

『書法漢学研究』第15号 平成26年7月 20頁～27頁

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当授業]

研究科：中国中世文化論特論など

専門教育：中国文学概論など

基盤教育：共通科目コミュニケーション・スキル「中国語」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

昨年度に引き続き，地域連携活動の一環として，一般市民を対象とする，中国語検定試験

（日本中国語検定協会主催）の山形試験場の運営（年3回）に試験場責任者として従事した。

福野 光輝

(1) 研究成果

○分担執筆

- 福野光輝（2013）. 交渉研究 藤永 保（監修）最新心理学事典，平凡社，178-179.
- 福野光輝（2013）. モデリング理論ほか209項目 繁樹算男・四本裕子（監訳）APA心

理学大辞典, 培風館. (VandenBos, G. R. (Ed.) (2007Z. APA dictionary of psychology, Washington,

DC: American Psychological Association. における209項目の翻訳)

- 福野光輝・渡邊洋一・山田浩久・本多 薫・阿部晃士・山根純佳 (2014). 山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート第1次報告書. (平成25年度山形大学人文学部研究活動支援 [プロジェクト研究] による助成)

○学会発表

- 福野光輝・森和彦 (2013a). 勤勉さが報酬分配におよぼす効果. 東北心理学研究, 63, 48.
- 福野光輝・森和彦 (2013b). 姿勢としての努力が報酬分配におよぼす効果. 日本心理学会第77回大会発表論文集, 105.

(2) 教育, 地域貢献等の活動

○担当授業

- 「人間の心と行動 (基幹科目・人間を考える)」(前期)
- 「調べて書く心理学 (教養セミナー)」(後期)
- 「心理学講義 (二)」(前期)
- 「社会心理学演習」(前期・後期)
- 「心理学実験」(前期)
- 「心理学特殊実験」(前期・後期)
- 「心理学情報処理実習」(前期)
- 「人間文化入門総合講義」(前期)
- 「基礎講義 (地域・人間)」(後期)
- 「社会心理学概論」(東北大学非常勤, 後期)
- 「社会心理学演習 / 心理学研究演習 I」(東北大学非常勤, 後期)

○教育活動成果

- 福野光輝×山形大学基盤教育「調べて書く心理学ゼミ」(2013). 合縁奇縁 (59ページ, 未公刊)

○卒業論文指導

- 「ボランティア参加意図の規定要因: ポジティブライフイベントと主観的幸福感に着目して」
- 「着席位置と視線によって説得効果は高められるか」
- 「情緒的サポートとしての共感・同情: 知人の共感は友人の同情より効果的か?」
- 「大学生における授業中の私語: 教師および授業への不満と私語頻度の関連」
- 「罪悪感と時間的距離が説得に及ぼす効果」
- 「公的自己意識の高さが集団内問題行動者への社会的排斥に与える影響」
- 「無意識的思考理論による単純接触効果の抑制」

○出張講義

- 福野光輝 (2013). はじめての心理学. (岩手県立千厩高等学校, 岩手県一関市, 2013年9月26日)

○メディア掲載

- 河北新報 (2014年4月3日朝刊) 「児童保護者「災害が不安」わずか11%：山形中心部で山形大が調査」
- 山形新聞 (2014年4月20日朝刊) 「「共助」高いニーズ：山形で山形大 防災などテーマ 住民調査」
- 山形大学広報誌みどり樹 (2014年夏号, 第60巻) 「YAMADAI TOPICS 人文学部：小学生の保護者を対象に安心・安全意識を調査」

藤澤 秀光

(1) 研究・教育活動

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業名]

- 学部：アメリカ研究演習, アメリカ研究特殊講義
英語 (R) II, 欧米文化概論, 人間文化基礎演習
 - 大学院：英米現代文化論特論, 英米現代文化特別演習
- [地域連携活動 (ボランティア)]
- 国際ロータリー第2800地区財団奨学生選考委員
 - 国際ロータリー第2800地区財団ロータリー学友会代表幹事

(3) 研究・教育活動に関するコメント

ユダヤ系, 日系といったアメリカの少数民族に関する小説, 演劇, 雑誌, 新聞, 広告, CM, 映画, TV番組, 音楽, スポーツといった, 文字化, 音声化, 映像化された文化的生成物を対象にした研究を行っています。

教育活動としては山形県のロータリークラブの財団奨学生のアドバイザーとして, 奨学金の申請から海外の留学先の大学, 大学院決定までの指導を行っています。

本多 薫

(1) 研究成果

論文

- 1) 本多薫, 門間政亮: ナスカ台地におけるラインセンター間の移動について (第2報) - 南北歩行実験による検証 -, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第10号, p.33-47, 2013.10

学会発表

- 1) 本多薫: 学習支援システムを想定した長時間使用時の生体情報の変化, 日本教育工学会第29回全国大会講演論文集 (秋田大学), p. 797-798, 2013. 9
- 2) 高橋俊宏, 本多薫, 渡邊洋一: CGのサイズ推定に関する検討, 日本人間工学会関東支部第43回大会講演集 (首都大学東京), p.72-73, 2013.12

その他

- 1) 山形新聞「ナスカの伝言」第3部研究者の横顔(3) , 2013年8月11日掲載
- 2) 山形新聞「ナスカの伝言」第4部(2) 無数の直線“道”の可能性, 2013年9月8日掲載

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業:(教養)情報処理;(学部)公務員対策セミナー, 人間情報科学概論, 人間情報科学基礎, 人間情報科学演習, 人間情報科学実習, プログラミング演習;(大学院)人間情報科学特論Ⅱ, 人間情報科学特別演習

卒業研究の指導(人間情報科学専修担当として指導):

- (a) オンラインコミュニケーションの特徴と課題について

地域貢献活動等:

- (a) 出張講義(羽黒高等学校) 模擬講義を担当した
- (b) ロータリークラブ(天童)にて, ナスカに関する講演
- (c) 日本経営工学会東北支部 運営委員
- (d) 日本人間工学会 代議員
- (e) 日本人間工学会東北支部 支部役員
- (f) 土木学会 地下空間研究委員会 心理小委員会 委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成25年度は, 学習支援システムの生体負担と休憩時間に関する研究, ナスカの地上絵の情報科学の視点からの研究を進めた。また, 教育としては, 情報科学関連の講義を担当するとともに, 共同で卒業研究の指導を行った。

松尾 剛次

(1) 研究業績

I 著書(共著2)

- 1) 遊学館ブックス『音学やまがた』(財)山形県生涯学習文化財団(共著), 2014年3月
- 2) 『山形学 山形における地域学の成立と展開』(財)山形県生涯学習文化財団(共著), 2014年3月

II. 論文(14)

1. 「近世の仏教再考 <1>近世仏教墮落史観の見直し」『大法輪 6』, 大法輪閣, 2013年6月(p 34-39)
2. 「河内西琳寺五輪塔と大和唐招提寺西方院五輪塔をめぐって-考古学と文献史学をつなぐ試み-」『戒律文化第8号』戒律文化研究会, 2011年3月, p 100-p 113
3. 「近世の仏教再考<2>キリシタン禁制と宗門改・寺請制度」『大法輪 7』, 大法輪閣, 2013年7月, p 28-p 33
4. 「近世の仏教再考<3>羽黒修験」『大法輪 8』, 大法輪閣, 2013年8月, p 42-47
5. 「近世の仏教再考<4>修験者の暮らし」『大法輪 9』, 大法輪閣, 2013年9月, p 42-47

6. 「病の思想史」『岩波講座日本の思想 第5巻 身と心』岩波書店, 2013年9月, p 203-232
7. 「近世の仏教再考<5>四国遍路再考」『大法輪 10』, 大法輪閣, 2013年10月, p 36-41
8. 「近世の仏教再考<6>日本仏教と戒律」『大法輪 11』, 大法輪閣, 2013年11月, p 42-47
9. 「中世叡尊教団と泉涌寺末寺の筑後国への展開～新発見の中世西大寺末寺帳に触れつつ～」『山形大学大学院 社会文化システム研究科紀要 第10号』, 2013年10月, p 69-81
10. 「近世の仏教再考<7>光明寺本『遊行上人縁起絵』」『大法輪 11』, 大法輪閣, 2013年12月, p 42-47
11. 「近世の仏教再考<8>最上義光と寺社」『大法輪 1』, 大法輪閣, 2014年1月, p 28-33
12. 「近世の仏教再考<9>親鸞の妻」『大法輪 2』, 大法輪閣, 2014年2月, p 36-41
13. 「近世の仏教再考<10>最上義光黒印状と寺社」『大法輪 3』, 大法輪閣, 2014年3月
14. 講演録「第57回 智山教学大会講演 葬式仏教の誕生」『智山学報』 第77号, 2014年3月
Ⅲその他（新聞記事, 書評, 講演など）
 1. 書評「岩本由輝編『歴史としての東日本大震災』」『山形新聞』2013年5月5日
 2. 記事「『残忍』最上義光イメージ本当?」『朝日新聞』2013年6月17日
 3. 記事「義光の過小評価, 再考必要」『朝日新聞』2013年10月8日
 4. 記事「義光公 いま再評価の時」『朝日新聞』2013年6月26日
 5. 記事「国重文・絵巻全十巻公開」『毎日新聞』2013年9月17日
 6. 記事「義光ゆかり 全10巻を公開」『山形新聞』2013年9月14日
 7. 記事「義光ゆかりの絵巻公開」『朝日新聞』2013年9月15日
 8. 講演「最上義光が生きた時・空」『山形の魅力再発見パート11』2013年10月5日
 9. 記事「治世に生かした文化的素養」『山形新聞』2013年10月11日
 10. 記事「長谷堂合戦勇壮に再現」『河北新報』2013年10月16日
 11. 記事「義光, 庄内支配の新資料」『朝日新聞』2013年12月11日
 12. 記事「最上義光 新たな文書」『山形新聞』2013年12月11日
 13. 記事「最上義光の文書 原本3点」『読売新聞』2013年12月11日
 14. 記事「直江兼統『直筆』家康情報に苦慮」『朝日新聞』2013年12月12日
 15. 記事「最上義光の寄進状 原本と確認」『庄内日報』2013年12月13日
 16. 記事「最上義光寄進状新たに2通発見」『産経新聞』2013年12月25日
 17. 記事「日本仏教史の変容」佛教タイムス2014年1月9日・16日合併号
 18. 記事「兼統の直筆文書か」『山形新聞』2014年2月5日
 19. 記事「直江兼統緊迫の戦況記す」『河北新報』2014年2月5日
 20. 記事「兼統の書状 原本発見」『読売新聞』2014年2月5日
 21. 記事「『葬式仏教』見つめ直す」『朝日新聞』2014年3月17日
 22. 書評「入間田宣夫・菊地和博編『講座東北の歴史第5巻 信仰と芸能』」『山形新聞』2014年3月30日

Ⅳ学生指導 卒論(10本)・修論(1本)を指導

○4年生

出羽国寒河江荘についての一考察

鎌倉時代執権政治に関する一考察

最上義姫に関する一考察

宝幢寺に関する一考察

最上三十三観音札所に関する一考察

安積開拓における宗教的一考察

絵馬に関する一考察

鎌倉幕府の序列形成の原理について

奥州合戦再考

山形城下町に関する一考察 ―城下絵図の分析から―

院生

聖徳太子信仰に関する一考察

V 地域連携

山形学企画委員として山形学講座の企画を行った。また、本学都市地域学研究所の所長として山辺町と連携して、「山形偉人再発見プロジェクト」を行い、第3回「安達峰一郎記念世界平和弁論大会」などを実施した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本年度は人間文化学科長として学校行政面も忙しかった。また、最上義光没後400年記念イベントでも忙殺された。

松本 雄一

(1) 研究成果

著書

1. *Centros de Líneas y Cerámicas en las Pampas de Nasca, Perú*, 2010. Yamagata University Press. (Masato Sakai 氏, Jorge Olano 氏, Hiraku Takahashi 氏との共著)

論文

1. The domestic occupation of Campanayuc Rumi; Implications for understanding the Initial Period and Early Horizon of the south-central highlands of Peru. *Andean Past* 11: 169-213. (Yuri Caverro 氏, Roy Gutierrez 氏との共著) (2013年10月)
2. Cupisnique pottery from Campanayuc Rumi, south-central highlands of Peru; Implications for late Initial Period interaction. *Peruvian Archaeology* 1:47-60. (Jason Nesbitt 氏との共著) (2014年3月).
3. 「先コロンブス期アメリカ大陸史に関する世界史教科書の記述はどう変わったか―新学習指導要領に沿って改訂された高等学校世界史教科書の検証」『古代アメリカ』16:85-100。(2013年12月) (青山和夫氏, 坂井正人氏, 井上幸孝氏, 井関睦美氏, 長谷川悦男氏, 嘉幡茂氏との共著)

学会発表

1. Paracas in the highland?: Interregional interactions between the Peruvian south coast and south-central highlands. April 6, 2013, 78th Annual Meeting, Society for American

- Archaeology, Hawaii Convention Center, USA
2. 「“周縁”社会から見たアンデス文明の形成」2013年6月15日、第15回山形大学歴史地理人類学会、於：山形大学
 3. Chavín in the South: Archaeological investigations at Campanayuq Rumi, Peru. (Jason Nesbitt and Yuichi Matsumoto) February 7, 2014, the Tulane Anthropology Student Association, Department of Anthropology, Tulane University, New Orleans, USA.
 4. Paracas en la sierra: Una perspectiva desde Campnayuq Rumi. Simposio Internacional “Desarrollo y Cambio Social en las Sociedades del Costa Sur del Perú”, February 16, 2014, Nacional Museum of Ethnology, Osaka.
 5. 「ナスカ社会と環境：2千年間の展開」（坂井正人・松本雄一）、2014年2月9日、文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」第5回国際研究者集会。

(2) 教育，地域連携等の活動

1. 「神殿と住居－カンパナユック・ルミ遺跡2013年度調査速報－」2013年10月19日、アンデス文明研究会主催 公開特別講座、於：東京外国語大学本郷サテライト。
2. 「神殿の外を掘る：カンパナユック・ルミ遺跡における居住域の調査」『チャスキ』48号：8-11。(2013年12月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

特になし。

元木 幸一

(1) 研究成果

なし

(2) 教育，地域連携等の活動

(授業)

基盤教育基幹科目「美術に見る男女の共生／競生／狂生」教養科目「笑顔の秘密—笑いの美術史（芸術）」

人文学部専門科目「基礎講義（文化解釈学・オムニバス）」「美学・芸術学概論」「芸術文化特殊講義」「美術史演習」「美学・芸術学演習」「芸術文化実習」

大学院科目「表象文化論（美学・芸術学）特論Ⅰ」「表象文化論（美学・芸術学）特別演習」（卒論指導）

「アメリングの肖像画表現の考察」「ギュスターヴ・モロー作《オイディプスとスフィンクス》における一考察」

(出前講義)

「笑顔の秘密—笑いの美術史」（茨城県立下館第一高等学校）2013年7月

「笑顔の秘密—笑いの美術史」（秋田県立大曲高等学校）2013年10月

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、昨年度に新書を出したことで若干腑抜け状態になっていた。反省。

科学研究費基盤研究 (C) の研究は、ぼちぼち進めたが発表にまで至らなかった。

卒論指導は、あまり適切に指導できなかった。アメリングはドイツ語文献ですらほとんどなく、難しいテーマだったと思う。

授業は、積極的な学生が多かったので、楽しかった。学科コースの改編により、新しい「文化解釈学コース」の1年生を指導することになったが、本格的な参戦は来年から。1年生向けのオムニバス講義「基礎講義 (文化解釈学)」は3回担当だが、大勢の学生が集まり、活発な授業を展開できたと思う。内容も主要な方法論の紹介と「生と死」というテーマを組み合わせると比較的面白い話になったのではないかと思う。

まとめるとやや反省すべきことが多い年だったということになるのかもしれない。

森岡 卓司

(1) 研究成果

[共編著]

1. 日本近代文学会東北支部編『東北近代文学事典』勉誠出版, 平成25年5月23日

編集委員

人名編項目「大橋乙羽」(pp103)「斎藤林太郎」(pp227)「沢渡恒」(pp267)「田山花袋」(pp350)「前原正治」(pp464)「松坂俊夫」(pp471)「森英介」(pp506)「横尾健三郎」(pp539), 事項編項目「近代作家と東北 (山形について)」(p583~p588)「地方紙と東北の文学 (山形について)」(p620~p622)を執筆 (いずれも単著)

[論文]

1. 森岡卓司「文学を引き裂く ―吉本隆明の芥川龍之介論―」, 『季刊 iichiko』平成25年4月20日 pp95~106

2. 森岡卓司「他者としての「言葉」 ―東日本大震災後の言説状況と戦後文芸批評を巡る試論―」, 『山形大学人文学部研究年報』第11号 平成26年3月1日 pp 1 (124) ~18 (107)

[講演, ワークショップパネラー]

1. 講演, 森岡卓司「大岡昇平『野火』と戦後日本文学」平成25年11月13日 ブリヤート大学 (ロシア)

2. ワークショップパネラー, 「『ゴンドラの唄』の比較文学」, 日本比較文学会東北支部第11回比較文学研究会 平成25年7月28日 仙台ビジネスホテル

[記事]

1. 森岡卓司「やまがた再発見」151. 黒田喜夫 上, 152. 黒田喜夫 下, 『山形新聞』平成25年5月26日, 6月2日

2. 森岡卓司「やまがた再発見」175. 吉本隆明 上, 176. 吉本隆明 下, 『山形新聞』平成25年11月10日, 11月17日

[書評]

1. 森岡卓司「端的な〈変異〉の実践 中村三春著『〈変異する〉日本現代小説』」, 日本文芸研究会『文

芸研究』第177集 平成26年1月30日

[解説]

1. 森岡卓司「4 評論二『原始社会像の真実』新納泉」, 教育出版株式会社編集局編『新編現代文B 言葉の世界へ 教授資料 ①I部1~4単元』, 発行日不記載(平成26年3月?), pp170~187

(2) 教育, 地域連携等の活動

[出張講義]

新潟県立佐渡高等学校(平成25年8月21日)

秋田県立横手高等学校(平成25年9月12日)

[公開講座]

1. 森岡卓司「浜田広介記念館と井上ひさしの遅筆堂文庫を訪ねて」, 寒河江市立図書館「シリーズ山形の文学を探る」第五回 平成25年10月10日, 遅筆堂文庫(川西), 浜田広介記念館
2. 森岡卓司「手紙を書く女, 手紙を読む女 ー日本近代文学における女性と手紙」, 山形市男女共同参画センター女性学講座 平成25年10月22日, 29日, 山形市男女共同参画センター「ファーラ」

[論文指導]

卒業論文5名, 修士論文1名

[授業担当]

「初期村上春樹の世界(文学)」ほか基盤教育科目3, 「日本文学演習」ほか専門教育科目7, 「日本近現代文化論特別演習」ほか大学院担当科目2(と特別研究)。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動は上記の通り, 長年編集に携わってきた『東北近代文学事典』が刊行されたことをはじめ, 実りの多い年度であった。

その他に, 学会活動としては日本近代文学会東北支部運営委員(大会企画担当), 日本比較文学会東北支部事務局長, 日本文芸研究会全国委員(大会企画担当), 日本文学協会委員。

教育活動には, 上記の他に, 平成23年度より実施している日本近代文学東北インカレゼミ(平成22年は山形大学単独の自主ゼミとして実施)を, 本年は福島県で行い, 学生が企画運営を担当する補助を行った。福島大, 東北大, 弘前大, 盛岡大, 東京大からの参加があった。また, 今年度卒業論文を執筆したのは, 学生が自主的に運営する「日本近代文学ゼミ」(通称, 「代ゼミ」)を立ち上げた学生たちであり, 極めて熱心かつ積極的に研究活動に取り組んでくれた。

地域連携等の活動として, 山形大学が行う朗読コンテストの審査員を, 平成24年度もまた継続して務めている。

人文学部国際交流事業の一環として, ロシアブリヤート共和国のブリヤート国立大学を訪問し, 学術的な交流の機会を得た。記して感謝致します。

山崎 彰

(1) 研究成果

- 高橋和, 中村唯史両教授などと共に共編著『映像の中の冷戦後世界』山形大学出版会 (2013年10月) を刊行し, この中で第4章「ドイツ民主共和国の崩壊と社会主義の体験」を執筆した。
- 学会報告「近世ブランデンブルクの農場領主制と低湿地開発」(政治経済学・経済史学会秋季学術大会, 下関市立大学, 10月19日)

(2) 教育, 地域連携等の活動

• 基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」(基幹科目), 「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」(教養科目)

• 専門教育

「歴史学基礎」「西洋史概論(二)」「西洋史講義(二)」「西洋史演習(二)」「西洋史講読(二)」「卒業論文」。以上の他に松本邦彦准教授とともに「地域づくり特別演習(二)」, 山内勲東海大山形高元校長, 藤田稔教授と「教職実践演習」を実施した。

• 大学院教育

「ドイツ史特別演習」において, 18世紀のヨーロッパ宮廷文化の英語テキストを講読。

- 地域連携① 『映像の中の冷戦後世界』出版と合わせて, 山形国際ドキュメンタリー映画最中に, 映画際と山形大学共催で, 連続講演会と映画上映企画「東欧ドキュメンタリー映画の現在—冷戦終了後の世界」を実施した(10月10~12日)
- 地域連携② 村山市「徳内学講座」で「博覧の医師テアとシーボルト: ファウストの後継者たち」を講演(10月29日)

山田 浩久

(1) 研究成果

著作

『観光資源の有効活用と中心市街地の再生』, 単著, 山形大学人文学部叢書, 2014年3月

学術論文

「山形大学COC事業 現地学習を中心にした災害復興学の実践」, 単著, 2015年7月, 山形大学紀要(社会科学編), 39-2, 1-26.

“How Inter-Municipality Exchange Programs in Japan Influence the Disaster Relief Effort: The Case of the Great East Japan Earthquake”, sole author, Mar 2014, Japanese Society of Urban Geography, 9, 42-54.

学会発表

山形県上山市における宿泊業の現状と課題, 単独, 2013年5月, 東北地理学会
Recent changes in land evaluation in the Tokyo metropolitan area, sole, Aug 2013, IGU Kyoto Regional Congress.

東日本大震災が東京大都市圏の住宅地評価に与えた影響, 単独, 2014年1月, 国土地理院東北ブ

ロック地理空間情報産学官地域連携協議会。

東京特別区におけるジェントリフィケーションに関する地代論的考察，単独，2014年3月，日本地理学会シンポジウム報告。

(2) 教育，地域連携等の活動

教育

基盤教育：地域の共生（共生を考える）

学部教育：地域構造論，地誌学，地域構造論演習，環境地理学調査実習，都市地理学調査実習，共生人間学（一）

大学院：経済地理学特論Ⅱ，経済地理学特別演習

地域連携

- 国土交通省国土地理院 地理空間情報産学官地域連携協議会委員
- 山形県総合政策審議会特別委員
- 山形県広域調整会議委員
- 山形市都市計画マスタープラン研究会委員
- 長井市市民講座講師
- 長井市職員研修講師
- 高校への学部・学科説明会および模擬講義 模擬講義2校
- 山形大学東北創生研究所 研究員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本学のCOC事業認可に伴い，連携自治体である上山市と共同研究を行うことができた。また，同事業の特徴を活かし，学生参加型の調査を実施することによって学生教育も充実したものとなった。その成果は上記①の著作として公表済みである。専門分野に関しては，国際地理学連合（IGU）の国際大会に参加し，科学研究費による研究成果を発表した。

山根 純佳

(1) 研究活動

翻訳：山根純佳・内藤準・久保田裕之，2013『正義・ジェンダー・家族』スーザン・モラー・オーキン，岩波書店（=Justice, Gender and the Family, 1989, Susan Moller Okin, Basic Books）

山根純佳，2013「訳者解題」，スーザン・モラー・オーキン『正義・ジェンダー・家族』山根純佳・内藤準・久保田裕之訳，岩波書店，303-308頁（=Justice, Gender and the Family, 1989, Susan Moller Okin, Basic Books）。

学会発表：山根純佳「介護労働の研究——介護保険下におけるホームヘルプ労働の変化」日本労働社会学会第25回大会シンポジウム 東北福祉大学 2013年11月17日

(2) 教育・地域連携活動

平成25年 山形県社会福祉協議会 山形県福祉人材センター運営委員

平成25年 山形県男女共同参画審議会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

人文学部, プロジェクト研究「山形市における安心・安全に関する学際的研究」において, 山形大学近隣の小学校PTAを対象にしたアンケート調査を実施した.

山本 睦

(1) 研究成果

論文

2014「先史アンデス形成期社会における人々の活動と戦略—ペルー北部ワンカバンバ川流域のセトルメント・パターンと景観—」『年報人類学研究』4: 1-32。南山大学人類学研究所。

2013 (山本睦は第一著者。伊藤裕子と共著)「ペルー北部とエクアドル南部における形成期の地域間ルートと地域間交流: GISによる加重コストルート分析を用いて」『古代アメリカ』16: 1-29。古代アメリカ学会。

2013 Las rutas interregionales en el periodo Formativo para el norte del Perú y el sur de Ecuador: Una perspectiva desde el sitio Inгатambo, valle de Huancabamba. Arqueología y Sociedad 25: 9-34. Museo de Arqueología y Antropología de la Universidad Nacional Mayor de San Marcos.

2013 Informe de Análisis de los Proyectos de Investigación Arqueológica Inгатambo y el valle de Huancabamba, Provincia de Jaén, Departamento de Cajamarca, Perú (2005-2013 Informe Final). Ministerio de Cultura, Perú (ホセ・ペーニャとの共著).

2013 Informe del Proyecto de Investigación Arqueológica “INGATAMBO”, Valle de Huancabamba, Provincia de Jaén, Departamento de Cajamarca, Perú (Tercera Temporada). Ministerio de Cultura, Perú (ホセ・ペーニャとの共著).

学会発表

2014「文化遺産管理とパブリック考古学」日本文化人類学会課題研究懇談会「東アジア公共人類学懇談会」中間報告会。国立民族学博物館。2014年2月20日。

2013「ペルー北部チョターノ川流域の遺跡踏査」古代アメリカ学会第18回研究大会。山形大学。(口頭発表)。2013年12月7日。

(2) 教育, 地域連携等の活動

2014「ペルー最北部ワンカバンバ川流域における考古学調査と文化遺産管理」第29回京都メソアメリカ考古学研究会。於: 京都, NPO 法人フィールドミュージアム文化研究所。2014年3月30日。

2014「パコパンパ遺跡周辺地域の遺跡分布調査」科研費プロジェクト研究会「権力の生成と変容からみたアンデス文明史の再構築」(基盤研究S研究代表者: 関雄二国立民族学博物館教授)。富山大学。2014年3月22日。

2014 “ Social Dynamics in the Andean Formative: A perspective from northern Peru”. Seminar of Master grade of Prehistorical Ethnology, Archaeology and Protohistory from

Université de Paris 1, Panthéon Sorbonne. 2014年3月4日。

2014「アンデス文明形成期社会の動態と考古学調査からはじまる文化遺産管理－ペルー北部ワンカバンバ川流域を事例として－」みんぱく研究懇談会。国立民族学博物館。2014年1月8日。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

とくになし

ライアン スティーブン

(1) 研究成果

〔論文〕

2013.11 How First-Hand Experience Modifies Schema: a Japanese study abroad group in Australia. In Conference Proceedings of 2nd International Symposium on Business and Social Sciences (ISBSS), Osaka, Japan. pp. 395-401. ISBN: 978-986-89536-6-6

〔学会発表〕

2013.10. Presentation. Investigating Cross-Cultural Schema by Recognizing the Hidden Gorilla of Assumed Stereotypical Knowledge. International Conference for Social Sciences and Humanities, International Journal of Arts and Sciences. (IJAS). American University of Rome. Rome, Italy.

2013. 4. Presentation. Seeing the Hidden Gorilla of Culture-Specific Schema in Cross-Cultural Communication Contexts. International Conference for Social Sciences and Humanities, International Journal of Arts and Sciences (IJAS). Paris, France.

2013. 3 . Presentation. The Battle of Little Bighorn (1876) – Custer's Last Stand. Japan Association of Language Teachers (JALT). Yamagata city, Yamagata Chapter.

(2) 教育，地域連携等の活動

英語コミュニケーション(上級), 英作文(上級), 英語(C), 英語(R), 異文化間コミュニケーション I, II

(3) 研究・教育活動に関するコメント

My research interest intersects with Intercultural Communication and Cross-Cultural Psychology with emphasis on international relations.

渡辺 文生

(1) 研究成果

《学会，研究会などの研究発表》

「講義の談話の単位と展開」日本語学会2013年度秋季大会ワークショップ，静岡大学，2013.10.26 (『日本語学会2013年度秋季大会予稿集』 pp.27-44.)

「初級日本語学習者のための「つながり」を目的とした遠隔授業の実践」日本語教育方法研究会

第42回研究会, 横浜国立大学, 2014. 3.15 (『日本語教育方法研究会誌』21(1), pp.56-57.)

「対話のインターアクションが談話のアウトプットに与える影響: 日本語母語話者による聞き手発話の刺激と効果」社会言語科学会第 33 回大会, 神田外語大学, 2014. 3.16 (『社会言語科学会第 33 回大会発表論文集』pp.84-87.)

On the differences in use of sentence final modality in Japanese oral and written academic discourse. Annual Conference of American Association of Applied Linguistics 2014, Portland, USA, 2014. 3.22.

「日本語学習者の物語作文における接続詞・接続助詞使用をもとに習熟度を探る」AATJ 2014 Spring Annual Conference, Philadelphia, USA, 2014. 3.27.

《出版物》

「講義のテーマに基づく受講者インタビュー談話の分析」石黒圭 (編) 『「大学学部留学生のための講義の談話に関する研究」論文集』pp.134-144. 2011~2013年度科学研究費補助金基盤研究 (B)

(2) 教育, 地域貢献等の活動

担当授業は, 日本語学概論・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語 (二)・共生人間学 (二)・国語の教材分析 A 《以上学部専門科目》, 日本語意味論特論・日本語意味論特演・特別研究《以上大学院科目》, スタートアップセミナー, ことばの意味の世界 (言語学)・日本語上級 2・遠い方言, 近い方言《以上基盤教育科目》。

地域貢献等の活動としては, 福島県立船引高校の模擬講義 (2013年11月11日) の講師を担当した。

(3) 当該年度の研究, 教育活動に関するコメント

研究活動に関しては, 研究分担者として 2 件の科学研究費プロジェクトに参加した。学生の指導については, 日本語学コース 4 名の卒業論文を指導した。

渡辺 将尚

(1) 研究成果

論文: 「過去への執着という病—マルティン・ヴァルザー『幼年時代の保護』における主人公の死をめぐる」(「山形大学人文学部研究年報 第11号」p.43~57, 平成26年 3月)

渡邊 洋一

(1) 研究成果

《著書》行場次朗・箱田裕司 (編著) 『新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 』福村出版, 2014. 3.15発行. 第 1 章「感覚の多様性」を担当.

《口頭発表》

- ・朝岡陸※・渡邊洋一「聴覚的時間と視覚的時間の差異についての検討」日本認知心理学会第11回大会. 2013. 6.29. つくば国際会議場. (※現東北大学大学院所属. 卒業論文に基づく研究を連名で発表).

- Human Activities from the Late Paracas to Inca Period at the Pampa de Nasca, Southern Coast of Peru. (Sakai Masato, Jorge Olano, Isao Akojima, Yoichi Watanabe, Kaoru Honda), 78th Annual Meeting, Society for American Archaeology, Hawaii Convention Center, USA, 2013.4.6.
- Visibility of Lines and Geoglyphs on Nasca Pampa : A Cognitive-psychological approach. (Yoichi Watanabe), Round Table Conference on Nasca, 2014. 山形大学, 2014. 2.20.

(2) 教育, 地域貢献等の活動

《教育活動》

基盤教育基幹科目「実験心理学入門(人間を考える)」, 学部専門科目「心理学実験」「心理学特殊実験」「認知心理学概論」「認知心理学演習」, 卒業論文指導(7名), 大学院社会文化システム研究科「実験心理学特論Ⅱ」「実験心理学特別演習」.

- 地域連携等の活動(高大連携)

新庄北高校研究室訪問(1名指導)8月.

仙台南高校出前講義7.5.

- 地域連携等の活動(地域貢献)

八戸サイエンスカフェ「山形大学のナスカ地上絵研究」6.15

全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会特別講演「山形大学のナスカ地上絵研究」7.26

天童ロータリークラブ主催公開シンポジウム「山形大学のナスカの地上絵の研究」にて講演.

11.10.

日本自動車連盟(JAF)山形支部交通安全実行委員会委員長.

【法経政策学科】

赤倉 泉

(1) 研究成果

特になし

(2) 教育, 地域連携等の活動

【教育】

教養教育科目: 中国語, 基礎演習

専門教育科目: アジア政治論, アジア政治論演習

【地域連携等】

出張講義(福島県郡山高校, 福島県橘高校)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面においては, 前年度に引き続き科学研究費補助金を使い, 毛沢東時代の政治および中国の民主化運動をテーマとした研究を進めた。

教育面では、学生に興味をもたせるために時事問題などを広く取り入れ、視聴覚教材を利用するなど工夫した。

阿部 未央

(1) 研究成果

- ・ (論文) 「事業場外労働のみなし制」土田道夫＝山川隆一編『ジュリスト増刊 労働法の争点』112-113頁 (有斐閣, 2014年3月)
- ・ (論文) 「改正パートタイム労働法の政策分析—均等待遇原則を中心に」日本労働研究雑誌642号45-52頁 (有斐閣, 2014年1月)
- ・ [報告] 「イギリス判例 *Hounga v Allen & Anor* [2012] IRLR 685 (CA) 不法就労の外国人労働者に対する人種差別」(東北社会法研究会, 2014年2月)
- ・ [報告] 「添乗員に対する事業場外労働のみなし制適用の可否—阪急トラベルサポート (派遣添乗員・第二) 事件最二小判平26・1・24判例集未登載」(東北社会法研究会, 2014年2月)

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育] 労働法, 労働法演習, 社会保障法, 日本の雇用と法, 少子化を考える (教養セミナー), 公務員講座

[地域連携]

- ・ 山形地方最低賃金審議会公益委員
- ・ 山形県建築士審査会委員
- ・ 外部講師 連合山形活動家養成講座 (2013年8月)
- ・ 外部講師 山形市男女共同参画 働く女性の講座 (2013年9月)
- ・ 外部講師 東北弁護士連合会主催 市民講座 (福島, 2013年11月)
- ・ 出張講座 宮城県立石巻高校 (2013年10月), 宮城県立泉高校 (2013年12月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

「イギリス・オランダにおけるパートタイム労働法制」(科研若手B)の2年目であり、イギリスの関連資料の読解を中心に研究を進めた。次年度の留学準備も行った。はじめて担当した基盤教育科目「日本の雇用と法」では、新書をベースに講義を進めたが他学部の学生にはやや難しい内容であったかもしれない。

池田 弘乃

(1) 研究成果

【学会報告】

「フェミニズム法学とクィア法理論の交錯する場」, 日本法哲学会学術大会・ワークショップA「クィア法理論の可能性を探る」(駒澤大学, 2013年11月16日)

(報告概要は『法哲学年報 2013 民事裁判における「暗黙知」—「法的三段論法」再考—』196-198頁 (2014年, 有斐閣) に掲載されている)

(2) 教育，地域連携等の活動

【教育】

都留文科大学非常勤講師（担当科目：「現代社会とジェンダー」，「ジェンダー研究Ⅳ」）

大妻女子大学非常勤講師（担当科目：「日本国憲法」）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本学着任前の研究・教育活動です。非常勤講師として多様な学生とコミュニケーションをとる機会に恵まれました。本学においてもその経験を活かし，よりよい教育を目指したいと考えています。研究面では学会報告一本にとどまりました。その内容を元にした論考が近刊予定です。

和泉田 保一

(1) 研究成果

・研究ノート

「都市法における市民参加手続と『行政的正義』」（2010年度～2012年度科学研究費補助金報告書『行政法システムの構造転換 イギリスにおける行政的正義』 pp.184-204）

・判例報告

大阪高判平成25年8月30日（平成25（行コ）1号）判例地方自治379号68頁（東北大学公法判例研究会，9月）

(2) 教育，地域連携等の活動

・担当授業

行政法Ⅰ，行政法Ⅱ，行政法演習，総合講座Ⅰ（「条例による地域政策」）・Ⅱ（「公法」2コマ），人文学部公務員対策講座（集団討論2コマを担当）

・地域連携活動

[審議会等委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形県医療審議会委員（継続）

山形広域環境事務組合エネルギー回収施設建設及び運営事業技術審査委員会委員（10月-）

山形大学医学部倫理委員会委員（継続）

[外部研修講師]

北陸地方整備局職員研修「法律」（7月）

長井市役所職員研修「政策法務」（～3月）

山形市役所職員研修「行政法」（2月）

[講演]

平成25年度人文学部公開講座『東日本大震災からの復興』第四回「地方自治体と復興計画」を担当（10月）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

ゼミ合宿をハッ場ダムに沈む川原湯温泉で行い，ハッ場ダム建設をめぐる原状や再建計画につ

いて実地調査および聴取調査を行い、また、世界遺産登録が予想された富岡製糸場を見学した。

2月に実施した異文化間コミュニケーション実習Ⅰ(セブ島)の際、山形から出発する時に大雪で成田空港まで行けるかどうか危うくなったことが印象に残った。

伊藤 嘉浩

(1) 平成25年度の研究成果

論文「東日本大震災時の企業や組織のマネジメント：山形県の事例」『山形大学社会文化システム研究科紀要』2013年9月。

東日本大震災時の山形県の主要な企業や組織の問題と対応について、各社の社長や知事にインタビュー調査を行い、報告・考察した。

学会発表「新規事業開発における資源獲得正当化のための企業間お墨付き」日本経営学会全国大会(2013年9月、関西学院大学)

(2) 平成25年度の教育活動

担当科目 学部「マーケティング前期」「マーケティング後期」「ベンチャービジネス論」「マーケティング演習」「スタートアップセミナー」「教養セミナー『経営戦略論』」、大学院「マーケティング特論」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本年度の研究成果は、紀要論文1本、学会発表1回であった。この論文は東日本大震災時の山形県の主要な企業や組織での危機対応のマネジメントの調査報告であり、将来の大地震災害に対する参考資料となるものである。

その他、平成25年度に、企業経営において重要性の増しているビジネスモデルの研究を積極的に行った。具体的には、プリンター産業、コーヒーマシン、業務用味噌汁マシン、オフィス通販、ベンチャー企業の各事例について企業調査を行い、合計45名程度にインタビューを行い、分析し、各論文にまとめた。その他にも、映画料金の定量分析や消費者行動の研究、さらに新しい競争戦略論の研究などを事例調査およびアンケート調査により行った。これらの研究成果として、平成26年度中に査読付き主要学会誌に7本の論文が掲載予定である。

岩田 浩太郎

(1) 研究活動

〔論文〕

- ・「豪農論・地域社会論の視角」(東洋大学井上円了記念助成共同研究2013年度報告書『近世・近代の地域社会と名望家Ⅱ』東洋大学、48-64頁、2014年2月)

〔パンフレット〕

- ・『村田商人の歴史像-「蔵の町」をつくった人々-』(単著、村田町文化遺産活用地域活性化事業実行委員会、2014年3月、A4版全8頁[平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業)による発行])

〔講演〕

- ・「豪農論・地域社会論の視角」(東洋大学井上円了記念助成共同研究公開研究会「近世・近代の地域社会と名望家Ⅱ」, 2013年12月7日, 於東洋大学白山校舎8号館8304教室)
 - ・「村田商人の歴史像－『蔵の町』をつくった人々－」(平成25年度文化庁文化遺産を活かした地域活性化事業・村田町文化遺産活用地域活性化事業古文書調査報告会, 村田町文化遺産活用地域活性化事業実行委員会主催, 2014年3月15日, 於村田町中央公民館大ホール[宮城県村田町])
- 〔科研費〕
- ・科学研究費補助金・基盤研究(C)「幕末・明治初年の農業構造と地域社会－羽州村山郡における再検討－」(研究代表者), 研究期間2010年4月～2014年3月
- 〔外部資金〕
- ・三菱財団法人科学研究助成「被災蔵古文書資料の保存整理と調査研究－宮城県柴田郡村田町の旧家文書を対象に－」(研究代表者), 研究期間2013年10月～2015年9月

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- ・基盤教育科目: 基幹科目「歴史にみる共生」(共生を考える)
- ・専門教育科目: 日本経済史, 地域経済史, 日本経済史演習, 法経政策専門基礎演習, 総合講座Ⅲ(経済経営)
- ・大学院教育科目: 日本近世史特論Ⅱ, 日本近世史特別演習, 歴史文化特別研究Ⅰ

〔委員会活動〕

- ・全学: 就職委員会委員, 研究活動に関する行動規範特別委員会委員, 研究活動の不正行為に関する告発受付窓口の責任者, 山形大学紀要(社会科学)編集委員会委員
- ・学部: 進路指導委員会委員, 人事選考委員会委員(経営学), 学部長選挙管理委員会委員, 人事選考委員会委員(経済政策論)
- ・学科: 学科運営委員会委員

〔シンポジウム・展覧会・巡見・地域での報告会など〕

- ・やまがた広域観光協議会・河北新報トラベル主催「村山地域に伝わる紅花のみちを巡る」バス車中及び現地での説明を担当(2013年7月9日, 仙台駅～高瀬紅花畑～山辺歴史民俗資料館～柏倉九左衛門家～紅の蔵)。
- ・平成25年度やまがた社会貢献基金による柏倉九左衛門家前蔵文化財調査及び特別展「柏倉九左衛門家名品展」(2013年11月2日～16日, 於中山町立歴史民俗資料館[山形県東村山郡中山町])に協力(漆器箱書など墨書の解説・展示品の推薦その他)
- ・平成25年度文化庁ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業「漆の地産地消と世界への展開－文化財建造物を通して－」によるパネルディスカッション「文化財建築と漆の地産地消」パネラー(2013年10月20日, 於ホテルシンフォニーアネックス[山形県寒河江市], コーディネーター三田村有純東京芸術大学教授)。
- ・NPO法人柏倉家文化村主催: 山形大学人文学部日本経済史ゼミナール共同研究発表会「江戸時代中期からの柏倉九左衛門家の金融実態」(2014年3月16日, 於柏倉九左衛門家長屋門上座敷)

〔社会活動〕

- 山形市社会教育委員（副代表）（2012年～）
- N P O法人「柏倉家文化村」顧問（2006年～）
- 奥羽史料調査会世話人（2002年～。宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など）
- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員（2012年4月～）
- 文化庁補助事業・宮城県柴田郡村田町文化遺産活用地域活性化事業調査研究員（2012年5月～）
- 村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（2013年12月～）
- 柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家所蔵古文書資料の整理保存・目録作成・調査依頼への対応
- 東日本大震災で被災した山形市の旧家蔵の古文書文化財の保全活動
- 新潟県新潟市の旧家からの古文書調査依頼への対応
- 日本科学者会議山形支部事務局長（2013年5月～）
- N H K ゆうどきネットワーク「あれある？これある？」コーナーのための「茶箱」（古文書保管箱としての利用例）取材への協力（於紅の蔵 [山形県山形市]，2013年12月11日 N H K 総合で放映）
- 『朝日新聞』2014年4月2日付紙面「紅花で繁栄 村田商人」への取材協力（3月17日取材）

(3) 研究・教育活動等に関するコメント

研究及び地域連携活動では、まず最終年度を迎えた科研費・基盤研究の一つの総括として「豪農論・地域社会論の視角」をまとめ、日本近世近代の地方名望家論に関するインターカレッジな共同研究会で講演し議論をおこなった。また、平成24年度人文学部プロジェクト研究の成果にもとづき申請し採択された三菱財団人文科学研究助成により、宮城県柴田郡村田町の古文書資料の保存整理活動を継続した。また、平成24年度から委嘱された文化庁事業による村田町文化遺産活用地域活性化事業調査研究員として同町職員とともに旧家調査を積み重ね、その成果をパンフレット『村田商人の歴史像』にまとめ報告会を開催した。さらに、村田町の「蔵の町並み」を保存・活用し同町の伝統的建造物群保存地区に指定するべく審議会委員として村田商人の歴史的意義につき発言し普及に努めた。その他、従来からの山形県東村山郡中山町岡の柏倉家（本家・分家）の調査とN P O法人柏倉家文化村の諸活動への協力をおこなった。これらに関連して、鳥取県鳥取市及び大山町・京都府京都市・新潟県新潟市・愛知県常滑市・神奈川県横須賀市・宮城県蔵王町・宮城県大河原町・山形県河北町・山形県山形市の古文書資料調査を実施した。また、平成26年度末に刊行予定の村田商人史料集（仮称）のための調査・史料選定作業もおこなった。村田町の旧家より同町への古文書資料の寄贈の相談を受け、助言・仲介をした。

教育活動では、大学院指導教員（主）として、被災地である岩手県大槌町出身の院生に対する指導をおこなった。また、前年度から引き続き留学生担当教員として、オランダのライデン大学からの留学生に対し指導をした。

委員会活動では、全学及び学部の就職関係の委員として、インターンシップ指導・企業訪問・キャリアガイダンス企画準備・『就職活動アンケート調査報告書』作成などの諸実務をおこなった。また、定年前の教員が選出されるのが「慣例」となっていた学部長選挙管理委員に何故か選出さ

れてしまい、戸惑いながらも適正な選挙の実行に全力を尽くした。

社会活動では、本年度もいろいろな事業に参加した。あたらしい事柄としては、日本科学者会議山形支部事務局長に選出され、同支部の活動を組織した。その一つの活動として、山形大学学長選考に際して候補者に対する公開質問状の作成と公開をおこない大学構成員へ情報提供をする取り組みをおこなった。

小笠原 奈菜

(1) 研究成果

[論文]

「労働契約上の安全配慮義務違反による損害と弁護士費用 [最高裁判所第二小法廷平成24. 2.24. 判決]」山形大学紀要 (社会科学) 44巻1号63-75頁 (2013)

「いわゆる時効待ち方針に関する弁護士の説明義務 [最高裁平成25. 4.16判決]」現代消費者法 21号82-90頁 (2013)

[口頭発表]

「いわゆる時効待ち方針に関する弁護士の説明義務」
消費者法判例研究会, 2013年7月19日, 於 早稲田大学

「いわゆる時効待ち方針に関する弁護士の説明義務」
東北大民法研究会, 2013年11月7日, 於 東北大学

「情報提供義務違反の効果としての契約調整一瑕疵担保責任の減額規定の類推適用」
国際取引法研究会, 2013年12月14日, 於 早稲田大学

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- ・基盤教育科目: 判例を読もう (教養セミナー)
- ・専門教育科目: 契約法入門, 債権各論, 民法演習, 専門基礎演習
(オムニバス方式) 総合講座Ⅱ (法律), 公務員試験対策セミナー

[地域連携]

山形県消費生活審議会委員

山形県個人情報保護運営審議会委員

消費生活相談員養成講座講師 2013年8月17日

山形県税理士会主催研究会講師「民法 (債権法) 改正の現状 - 消滅時効を中心として -」2013年9月17日

山形大学公開講座 (人文学部)「震災復興をめぐる問題~民法学の視点から~」2013年10月1日

出張講義「日常生活におけるアクシデントと法律」2013年12月11日, 於 山形中央高校

適格消費者団体学習講演会「健全で公正な市場のための適格消費者団体の役割」事務局 2014年3月8日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成24年度に行なった口頭報告2件を公表することができ、さらに、口頭報告を3本行なうことができた。地域連携について、消費者問題、とりわけ、唯一の空白地帯である東北地方に適格消費者団体を設立する活動に着手した。教育について、卒論執筆学年の演習担当学生が12名となり、1人1人に対してきめ細かい対応をすることへの限界を感じた。講義については、民法改正の議論と基本知識の双方を内容とすることにより最新の情報を理解できるようになった学生もいる反面、分量が多すぎてわかりにくいと感じる学生もいた。

金子 優子

(1) 研究成果

論文

『Managing the Great East Japan Earthquake Emergency with Emphasis on Fukushima Nuclear Crisis Communication: Best and Worst Practices』, Asian Review of Public Administration Volume 24, Nos. 1-2, pp50-63, 2014年1月

(2) 教育、地域連携等の活動

担当科目：

行政学、行政学演習、公共政策とはなにか、日本国憲法、スタートアップセミナー

審議会委員：

東根市情報公開・個人情報審査会委員

村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、「公益法人を巡る改革が公益法人の活動に及ぼす影響の定量的分析・評価に関する研究」のために外部研究資金（平成25-28年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題番号：25380277）を得た。研究初年度の研究活動として、①事業所企業統計調査と公益法人概況調査を用いた平成16年結合データの作成、②政府・地方公共団体関連公益法人名簿データファイルの整備、③学校法人名簿ファイル及び社会医療法人名簿ファイルの整備、④社会福祉法人名簿データの収集を行った。

教育活動については、プレゼンテーションソフトや映像ソフトを利用することにより視覚に訴えた分かりやすい講義となるように努めた。また、対話型の講義を行うように努め、学生の能動的学習を推進した。

川村 一義

【研究】

公表したものはない。

【教育・地域連携等】

[担当科目]

- 公共政策学（本学）
- 公共政策学演習（本学）
- 総合講座Ⅰ（公共政策）（本学；分担）
- 政策形成論（新潟大学法学部；集中講義）

[地域連携]

- 山形大学公開講座〔人文学部〕「東日本大震災からの復興」2013年09月24日

[その他]

- 人文学部広報委員会委員（HP 部会）
- 山形大学法学会運営委員（『山形大学法政論叢』編集担当）
- 公務員対策セミナー（本学；分担）

【雑感】

赴任1年目であったが、教育活動においては充実した1年であった。新潟大学法学部での夏期集中講義は、その後の公共政策学講義の下準備となった。どちらも意欲的な学生の受講態度に支えられ、教育の喜びを実感させた。また、赴任早々に市民向け公開講座の講師を引き受け、戸惑いながらも何とか務めた。激励して下さった市民のみなさまに、改めて心よりの感謝を申し上げたい。

赴任して初めての役職は広報委員であり、大学組織の広報活動を間近に学ぶ機会となった。足元のおぼつかない私を支えて下さった先生方にも、心よりの感謝を申し上げたい。さらに、『山形大学法政論叢』の編集を担当したことは、図らずも自身の研究意欲を高める契機となったことも記しておきたい。

それにもかかわらず、一方で、時間を浪費するばかりで実りの少ない活動もあった。多くの先生方が同じ思いを共有したところでもあり、適格な制度を追求する改革を進めていきたい。

北川 忠明

(1) 研究成果

論文：「災害に強いコミュニティづくり」

清水修二・松岡尚敏・下平裕之編著『災害復興学入門』

(2013年9月、山形大学出版会) 所収

(2) 教育、地域連携等の活動

担当授業：「政治と人間」（基盤教育）、「政治理論」（学部）、「政治理論演習」（学部）、「現代政治論特論」（大学院）、「現代政治論特演」（大学院）

地域連携：長井市振興審議会会長

山形県明るい選挙推進協議会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本年度は、災害復興をテーマとした「まちづくり」に関する研究をまとめることができた。また、レオン・ブルジョワの連帯主義研究はある程度進めることができた。

教育については、時事問題を取り入れるなど政治学の基礎的知識を修得させるよう工夫をしているが、学生の理論的思考力が年々落ちているように思われるので、さらなる工夫を心がけたい。大学院については、社会人大学院生を受け入れ、研究方法の基本から教育するよう務めた。

國方 敬司

(1) 研究成果

- 単著「イギリス農業革命はどのようにとらえられるべきか—プロザロウ再読—」『山形大学紀要 (社会科学)』第44巻2号, 2014年2月, pp. 1-20.
- 単著「ロック「土地所有権」論と批判の系譜」『山形大学歴史・地理・人類学論集』第15号, 2014年3月, pp11-37.

(2) 教育, 地域連携等の活動

【教育】

- 山形大学での授業
西洋経済史, 環境と経済, 西洋経済史・環境と経済演習, 基礎演習, 経済からみた環境との共生
- 東北文教大学での授業
くらしと経済

【学会役員】

比較家族史学会理事, 社会経済史学会評議員

【講演等】

- a) 「輸入食品の安全確保の取組について考えてみよう」＜パネルディスカッション・コーディネーター＞ 山形県食品衛生推進大会 (遊学館) 2013年7月23日 (火)
- b) 「三浦新七博士を語る」＜パネルディスカッション・コーディネーター＞三浦新七博士記念会・経済講演会 (パレスグランデール) 2013年12月12日 (木) など

【審議会委員等】

山形新聞報道審査会委員, 三浦新七博士記念会評議員, 「子育てするなら山形県」推進協議会委員, 山形市都市振興公社評議員など

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究については, 2本の論文を公刊することが出来た。

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果

【論説】国際取引法研究の最前線「証券振替制度における担保権～ユニドロア条約の規定～」国

際商事法務 Vol.41, No. 9 (平成25年9月)

[口頭発表]

「受託者の信託違反と救済」東北大商法研究会 平成25年12月14日

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当授業] スタートアップセミナー，商法 I，商法 II，商法演習 I，国際取引|マネジメント論（理工学研究科）

[地域連携活動]

山形地方裁判所委員会委員，山形県消費生活審議会委員，山形県指定管理者選定委員会委員，寒河江市地域づくり推進委員会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

受託者の権限外行為や善管注意義務違反，忠実義務違反の場合に，受益者が求めることができる救済，つまり信託法の物上代位，損害賠償請求の規定の解釈，適用等についてイングランド法も参照しつつ検討した。この問題は，会社の取締役の責任にも通じるテーマであり，引き続き検討したい。

また，教育に関してはとりわけスタートアップセミナー，演習において学生が自分の見解を積極的，かつ理論的に説明できるよう，口頭発表の仕方，その準備についての指導を重点的に行った。

是川 晴彦

(1) 研究成果

[科研費研究]

・「大型店撤退後の中心市街地再開発における経済行動分析」，研究成果報告書，平成25年6月。

[受託研究（長井市の第五次総合計画策定に関する研究）]

1) 「目標設定と指標作成の意義について」，平成25年7月。

2) 「総合計画で捉えるべき目標設定と評価手法及び効果的な実施計画について その1：基本構想段階で目標設定や指標設定をどのように行うべきか」，平成25年9月。

3) 「総合計画で捉えるべき目標設定と評価手法及び効果的な実施計画について その2：総合計画の実施に求められる形骸化しない実施計画について」，平成26年1月。

(2) 教育，地域連携などの活動

[担当授業]

ミクロ経済学，応用ミクロ経済学，公共経済学，経済数学，ミクロ経済学演習

[地域貢献活動など]

- ・山形県（産業構造審議会委員，入札監視委員会委員長，指定管理者審査委員会の外部委員）
- ・天童市（行政経営計画策定有識者懇談会委員，都市計画マスタープラン策定有識者懇談会委員）
- ・長井市行財政改革推進委員会委員長
- ・きらやか銀行との連携における公開講座の講師（山形駅前大通り商店街振興組合，中心市街地

活性化について)

- 西川町職員研修会における講師 (T P Pについて)
- 「山形県民シンポジウム in 天童」におけるコメンター
- 出張講義 (米沢東高校, 新庄北高校, 石巻西高校)
- 高校生の研究室訪問への対応 (新庄北高校)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

科研費研究 (中心市街地活性化に関する研究) が採択された。草津市などの実態調査やヒアリングを行い, 中心市街地居住人口の増加や大型店撤退後の跡地利用といった中心市街地活性化政策の課題に関する有益な知識や情報を得ることができた。課税理論の研究では, 不完全競争市場を対象とした分析を継続して行った。

教育面では, 要点が整理しやすい資料の作成を心がけた。前年度に引き続き, 配布資料に記載する練習問題について内容の更新や記載数の増加を行い, 受講生が講義内容を復習することに配慮した。また, 平成25年度は, 「経済数学」を初めて担当した。新規に配布資料を作成する必要があり, 資料作成に多く時間を要した。特に, 図の作成や現実の経済との関連の説明に力を注いだ。

今野 健一

(1) 研究成果

- 倉持孝司編『歴史から読み解く日本国憲法』(2013年7月・法律文化社)(分担執筆)

(2) 教育, 地域連携等の活動

① 担当授業科目

- 学部専門科目: 憲法Ⅱ・Ⅲ, 憲法演習Ⅱ, 総合講座Ⅱ (法律)
- 基盤教育科目: スタートアップセミナー, 日本国憲法, 教養セミナー

② 地域連携・高大連携活動

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員, 山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員, 長井市教育委員会 (体罰事件再発防止に関する助言)

(*長井平和学習会講師: 5月, 山形県平和センター学習会講師: 6月)

(3) 研究, 教育活動に関するコメント

研究面では, 最初の企画から2年余りを経て, 共著書『歴史から読み解く日本国憲法』が刊行された。〈日本の戦後史の大きな流れの中で揺れ動いてきた憲法学説や裁判例をそれぞれの時代的背景の中に位置づけることによって, 日本国憲法が果たしてきた歴史的役割を理解できる〉ようになることを目指した憲法入門書である。学会活動では, 5月の日本教育法学会総会において選挙により理事職に選任された。

教育面では, 2年連続でスタートアップセミナーを担当することとなった。昨年と比べて多少の進歩はあったか。教養セミナーでは, 従来と異なる新たな内容 (憲法と戦後のえん罪事件) のゼミを実施した。予想よりも少人数だったが, 学生の反応は悪くなかった。

社会貢献としては、体罰事件再発防止に関し、長井市教育委員会の求めに応じて助言を行い、同委員会が策定したアクション・プランに掲載するための（簡略な）提言を取りまとめた。

坂本 直樹

(1) 研究成果

① 論文

気候変動による砂浜浸食の地域別被害計測並びに適応政策の検討，佐尾博志・森杉雅史・大野栄治・坂本直樹・中畠一憲・森杉壽芳，土木学会論集 G（環境），Vol.69, pp.I_249-I_257, 2013. 9.

救急活動における病院収容時間と除細動実施が救命率に与える影響について：ウツタイン統計データによる 2 方程式プロビット・モデル分析，瀧本太郎・阪田和哉・中畠一憲・生川雅紀・坂本直樹・阿部雅浩，医療経済研究，Vol.25, pp.50-69, 2014. 1.

東日本大震災における復興投資の地域間再分配効果の計測，林山泰久・中畠一憲・坂本直樹・阿部雅浩，RIETI Discussion Paper Series, 14-J-004, pp. 1-42, 2014. 1.

② 学会報告

Asymmetries in the Japan's Revenue-Expenditure Nexus, Takimoto, T. and Sakamoto, N., Singapore Economic Review Conference 2013, 2013. 8.

Mortality Risk Reduction Benefit Measurement by Overlapping Generations Model, Morisugi, H. and Sakamoto, N., European Regional Science Conference 2013, Ordinary Session, 2013. 8.

General Equilibrium Approach Consistent with Travel Cost Method for Economic Evaluation of Beach Erosion by Climate Change, Nakajima, K. and Sakamoto, N., European Regional Science Conference 2013, Ordinary Session, 2013. 8.

(2) 教育，地域連携等の活動

東北文化学園大学総合政策学部（前任）において，財政学，地方財政論などを担当した。また，非常勤講師として東北学院大学経済学部の財政政策論を担当した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

わが国の国家財政に関して歳入と歳出の因果性を研究しており，平成25年度の成果は学会報告が 1 件である（報告者は共同研究者）。また，費用便益分析に関して，3 編の論文が刊行され，2 件の学会報告を行った（いずれも報告者は共同研究者）。

澤田 裕治

(1) 研究成果等

〔研究成果〕なし

〔科研調査研究〕海外調査：2014年 2月26日～3月15日。イギリスにて科研費研究題目「中世都市ロンドンの裁判と法の法社会史的研究」の海外調査研究。ロンドンを中心に，ソールズベリー，

ウィンチェスター等の現地調査を実施し、併せてロンドン大学のポール・ミッチェル教授、オックスフォード大学のポール・ブランド教授、イーストアングリア大学のニコラス・ヴィンセント教授を訪問・面談し、科研費調査研究及びマグナ・カルタ研究についてディスカッションをした。なお、2014年3月12日に British Library で実施された Magna Carta Project Meeting (ニコラス・ヴィンセント主催、出席者：ポール・ブランド、デイヴィッド・カーペンター、ヘンリー・サマソン、クレア・プレイ、ヒュー・ドーティ、ソフィー・アンブラー、ジェフリー・フィンチ) にオブザーバーとして特別参加を許され、2015年のマグナ・カルタ800年祭を前にニコラス・ヴィンセント教授を中心として進められているマグナ・カルタ・プロジェクトの研究企画の進行状況を目の当たりにすることができた。

(2) 教育、地域連携等の活動

■平成25年度の担当授業の紹介

〔山形大学における講義・演習等〕

- ・基盤教育科目：基礎から考える法学，基礎からの民法
- ・専門教育科目：専門基礎演習，西洋法制史，西洋法制史演習，

〔山形県立保健医療大学における講義〕 法学

〔山形県立産業技術短期大学校における講義〕 法学概論

〔山形市立済生館高等看護学校における講義〕 看護関係法令 I

■地域貢献活動

〔記念行事〕

○第3回安達峰一郎記念世界平和弁論大会〔2013年11月16日。山辺町が生んだ世界的偉人「安達峰一郎」の平和の精神を受け継ぐ弁論大会として山形大学都市・地域学研究所と山辺町が企画した記念行事。中・高生を対象に実施〕の企画・運営。

○最上義光シンポジウム（第1回と第2回）の企画・運営〔6月23日と9月14日〕

〔委員〕

山形大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員会委員

山形県立保健医療大学倫理委員会委員

山辺町・山形大学連携協定懇談会委員

〔オープン・キャンパス〕人文学部広報委員として「オープン・キャンパス2013年」を企画・運営し大きな成果を得た。

〔ホーム・カミングデー〕人文学部広報委員として「ホーム・カミングデー2013年」を企画・運営し大きな成果を得た。

〔出張講義・進学説明会〕

6月19日 鶴岡中央高等学校 進路ガイダンス

6月22日 青森県三沢高等学校 模擬講義

9月24日 秋田県湯沢高等学校大学訪問 学部説明

11月13日 福島西高等学校 模擬講義

11月22日 栃木県小山高等学校 模擬講義

12月4日 鶴岡中央高等学校 大学等進学説明会

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究では、科研費調査研究及びマグナ・カルタ研究を実施するほか、ブリストル大学ロースクール教授ケン・オリファント著「[ライランズ対フレッチャー事件]とコモン・ローにおける企業責任の生成」, in Helmut Koziol and Babra C. Steininger (eds.), *European Tort Law 2004*, (Springer), pp. 81-120, copyright 2005を研究し、翻訳公表する準備を整えた。

教育では、基盤教育科目において、『対話 Dialogue23』と題するミニコミ誌を毎回発行し、学生同士と教員の相互コミュニケーションにより、講義内容の血肉化を図り、受講者から好評を得た。

下平 裕之

(1) 研究成果

[著書]

- ・清水修二・松岡尚敏・下平裕之編『災害復興学入門－巨大災害と向き合う、あなたへ』山形大学出版会, 2013. 9. (編集および序論を担当)

[論文]

- ・下平裕之・福田進治「古典派経済学の普及過程に関するテキストマイニング分析－リカード、ミル、マーティノーを中心に－」『人文社会論叢(社会科学編)』第31号, 2014年2月.

[学会報告]

- ・「経済学史研究におけるテキストマイニング分析の導入:ケインズ『一般理論』と書評の関係」(経済学史学会第77回大会, 2013年5月25日, 関西大学)
- ・"Popularization of Classical Economics: Text-mining Analysis on David Ricardo, James Mill and Harriet Martineau", Sendai Economic Thought Seminar, Tohoku University, March 30th, 2014.

[研究会報告]

- ・テキストマイニング手法の経済学史への適用に関する報告(第42～45回経済思想研究会, 東北大学他)

(2) 教育・地域連携等の活動

・教育活動

山形大学における担当授業:

[学部] 経済思想, 経済学史, 経済学史演習, 地域づくり特別演習(夏季集中), 公務員講座(講義, 小論文指導)

[基盤教育] エコスタジアムプロジェクトを考えよう, 最上川の自然と文化, 震災復興学入門
非常勤: 羽陽短期大学(経済学)

・地域連携活動

高校での出張講義等: 上山明新館高校

山形財務事務所財務モニター

山形大学まちづくり研究所・山形仙台圏交流研究会への参加
山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長
ながい市民未来塾講師
市町村アカデミーにおける講演
災害復興市民講座（仙台市）における講演
市民向け地域づくり講演会（真室川町，山形市）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については科研費研究テーマ（テキストマイニング手法の経済学史への適用）に関わる論文を刊行するとともに、学会全国大会および国際セミナーにおいて報告を行った。また研究会において引き続きテキストマイニングに関する共同研究を継続した。

教育・地域連携活動については、東北創生研究所の研究展開を進めた他、福島大学・宮城教育大学と連携した震災復興に関する基盤教育科目のオーガナイザーを務めた。また3大学連携による災害復興学テキストをまとめるに当たり、編者および分担執筆者として参加した。

尻無濱 芳崇

(1) 研究成果

【論文】

- 尻無濱芳崇 (2013) 「介護施設経営法人の業績管理システム：企業と社会福祉法人の比較」『原価計算研究』第37巻第1号, pp.76-85.
- 荒井耕・尻無濱芳崇 (2013) 「医療法人における管理会計実践の法人規模別状況」『原価計算研究』第37巻第2号, pp.55-65.

【学会報告】

- Shirinashihama, Y. (2013), Performance Management Systems in Nursing Homes: Comparing For-profit Organizations and Social Welfare Corporations, European Accounting Association, 36th Annual Congress (2013/05/07).
- 尻無濱芳崇 (2013) 「介護事業における組織の公益志向と業績測定尺度の利用」日本管理会計学会2013年度第2回フォーラム（7月13日報告）.
- 岡田幸彦・尻無濱芳崇 (2013) 「原価計算・原価管理と業績は本当に関係するのか？：サービス企業への継続調査による追試」原価計算研究学会第39回全国大会（8月30日報告）.
- 荒井耕・尻無濱芳崇・岡田幸彦 (2013) 「医療法人における責任センター別損益業績管理による財務業績改善に関する検証—非営利組織での管理会計の有効性評価—」日本会計研究学会第72回全国大会（9月16日報告）.
- 尻無濱芳崇 (2014) 「社会福祉法人における管理会計情報の活用」第42回京都管理会計研究会（2月8日報告）.

(2) 教育・地域連携等の活動

・教育活動

1年生・2年生のゼミ教育（前任校）

・地域連携活動

特になし

(3) 教育・研究活動に関するコメント

研究活動では、介護事業を対象として営利企業と非営利組織の管理会計の違いを明らかにした。また、病院における管理会計に関する研究を積極的に行った。論文2本、学会報告5回と積極的に研究を学外に発表することができたと思う。

教育活動については前任校で1年・2年次のゼミ教育を行った。初めての教育活動であったため、内容を詰め込みすぎた、難易度が高すぎたなど反省点が多かった。

杉野 誠

(1) 研究成果

Sugino, M. and T. H. Arimura "The Effects of Alternative Carbon Mitigation Policies on Japanese Industries" Energy Policy, Volume 62, 1254-1267.

Sugino, M., T.H. Arimura, K. Iwata, and M. Morita "Economic Impacts and Emissions Reduction Effects of JCM: Analysis using a Disaggregated Input-Output Table" 早稲田大学現代政治経済研究所 Working Paper Series, No.E1313

(2) 教育・地域連携等の活動

担当科目（早稲田大学商学部 専任）

専門英書講読（前期）、専門英書講読（後期）英書文献研究（大学院）、計量分析（大学院）

地域連携など

平成25年度新座市民総合大学 第4回公開講座担当 「環境学講座 -環境政策②- 地球温暖化対策税と家庭の負担」（2013年7月20日）

三菱商事（株）寄附講座 上智大学「地球環境学II」第2回講座担当 「地球温暖化対策の企業と家計への影響」（2013年10月10日）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本学着任前のため、貢献ができなかった。今後、精力的に研究・教育・地域連携など幅広く取り組んでいきたい。

鈴木 明宏

(1) 研究成果

- ・地方政府間の距離が財政調整に対する態度に与える影響 - 独裁者ゲーム実験からの示唆 - , Tezukayama RIEB Discussion Paper Series No. 7, 2013.

- Non-Monetary Punishment に対する互惠性の存在とその影響 - 繰り返し一方的最後通牒ゲーム実験による検証 -, 理論と方法 28(2) , 203-219, 2013.

(2) 教育, 地域連携等の活動

【担当講義】

ゲーム理論, 産業組織論, 意思決定論演習, 現代の経済理論 (基幹科目 (工学部フレックスコース)), 産業組織論 (東北学院大学非常勤)

【地域連携等】

出張講義 (山形県立谷地高等学校)

仙山交流研究会メンバー, まちづくり研究所員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究については, 科研費が本来最終年度であったが, 携帯電話による経済実験システムの開発が難航し, 1年間延長することになった。また, 教育については東北学院大学で新たに教員を採用するまで産業組織論の講義を新たに引き受けた。本学での講義と異なり4単位講義のため, 講義ノートを1から作製した。本学での講義に活かせる部分は反映させていきたい。

砂田 洋志

(1) 研究成果

- “The Oxford Handbook of Bayesian Econometrics”, Oxford University Press., 2011, J.Geweke, G.Koop, H.van Dijk edited の第7章 ‘Bayesian Macroeconometrics’ の翻訳 (7. 1-7. 4 は香川大学経済学部姚峰教授と共訳, 7. 5-7. 7 は単独で翻訳) : 『ベイジアン計量経済学ハンドブック』, 2013, 朝倉書店.

(2) 教育, 地域連携等の活動

担当授業

計量経済学, 統計学, 専門演習 (学部), 経済数学 (前期)

地域連携

山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事として監事業務を行った。

山形・仙台圏交流研究会へ参加した。

山形県統計利用アドバイザーとして県庁統計企画課と連携して活動した。

山形県職員研修講師と講義をした。

山形県経済動向研究会に同会の構成員として参加した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

計量経済学関係の研究では, 依頼されたハンドブックシリーズを翻訳した。

中心市街地活性化の研究では, 大阪市で開催された研究会と視察へ参加した。

デマンド交通の研究では, 三重県玉城町, 栃木県芳賀町の事例を視察し, 報告書にまとめた。

教育関係では、今年度から経済数学（前期）を初めて担当した。講義では講義ノートを配布するなどして、学生の理解を深めることに力を注いだ。

高倉 新喜

(1) 研究成果

- 後藤昭・白取祐司編『新・コンメンタール刑事訴訟法 [第2版]』（日本評論社，2013年）123 - 146頁 [高倉新喜執筆]，216 - 261頁 [高倉新喜執筆]，900 - 946頁 [高倉新喜執筆]（ただし，223 - 224頁，239 - 241頁および244 - 246頁は除く。）
- 高倉新喜「自白事件を簡易迅速に処理するための手続の在り方」『刑事法ジャーナル』37号（2013年）49 - 53頁
- 高倉新喜「利益再審における確定再審開始決定の拘束力」高橋則夫ほか編『曾根威彦先生・田口守一先生古稀祝賀論文集 [下巻]』（成文堂，2014年）851 - 866頁

(2) 教育，地域連携等の活動

- 専門科目：刑事訴訟法
刑事法基礎
刑事訴訟法演習
法と裁判
総合講座Ⅱ（刑事法3・刑事法4）
- 基盤教育：スタートアップセミナー
- 地域連携
出張講義：宮城県宮城第一高校（テーマ：「法律学って、何やるの？」）
研究室訪問受入れ：宮城県仙台向山高校（平成25年度アカデミックインターンシップ）
山形県介護保険審査会委員
山形県精神医療審査会委員
山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
山形県弁護士会綱紀委員会予備委員
取材協力：読売新聞（起訴状における被害者の匿名記載について）
山形テレビ（裁判員制度について）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては、法制審議会「新時代の刑事司法制度特別部会」で論点の一つとされた「自白事件を簡易迅速に処理するための手続の在り方」についての論文を刑事法ジャーナルに掲載できた。教育活動においては、刑事訴訟法演習での現地学習として置賜学院および山形刑務所の見学を実施することができた。

高橋 和

(1) 研究成果

- 著書 高橋和・中村唯史・山崎彰編著『映像の中の冷戦後世界—ロシア・ドイツ・東欧研究とフィルム・アーカイブ』山形大学出版会, 2013年10月
- 研究ノート「人の国際移動をめぐる研究の動向—ヨーロッパにおける人の移動の自由と管理を中心に—」『山形大学法政論叢』第58・59合併号, 平成26年3月, 43-69頁。
- EUSI コメンタリー「ユーロリージョンの拡大は何を意味するか?」
EUSI メールマガジン Vol.42 (2014年3月10日) <http://eusi.jp/>
- 学会報告
「EU/ロシア境界領域のサブリージョナリズム」
日本国際政治学会2013年度研究大会, 2013年10月27日
新潟朱鷺メッセ
- 招待講演
津田塾大学国際関係研究所・EUSI 共同開催研究懇談会
「『変貌する権力政治と抵抗』における国際関係学の射程」2013年11月21日

(2) 教育, 地域連携等の活動

(教育)

- 専門科目 国際関係論, 国際公共政策, 地域の国際化, 国際関係論演習 を担当
- 大学院 国際関係特論, 国際関係特別研究を担当

(地域連携等)

- 出張講義 山形中央高等学校 (12月11日)
- 山形県労働委員会公益委員
- 山形労働局 最低賃金審議会公益委員
- 山形県公立大学法人評価委員
- 山形県障がい者施策推進協議会学識委員など

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成25年度はサバティカルであったために, 研究活動を充実させることができた。

教育面では, 前年度に続き, クリッカーの利用によるアクティブラーニングに寄与するよう試みた。

大学院の学生に対して, 修士論文の指導を行った。その過程で, 「北東アジア学会」における学会報告を行うことができた。さらに修士論文は査読を経て『法政論叢』に掲載することができた。

高橋 良彰

(1) 研究成果

「明治三一年戸籍法における身分登記規定の意義」2013年8月『日本社会と市民法学: 清水誠先生追悼論集』日本評論社 (pp.461-478)

「民法商法施行取調委員会の審議経過」2014年3月松山大学法学部松大GP推進委員会編『「シンポジウム『民法典論争資料集』(復刻増補版)の現代的意義』(pp.133-141)

(2) 教育, 地域連携等の活動

金融法入門(前期), 私法入門(前期), 親族法(後期), 法経政策専門基礎演習(前期), 教養教育(後期), 民法演習III(通年)。地元での活動では無かったが, 研究成果の后者は, 2013年11月9日に松山大学法学部主催の「シンポジウム『民法典論争資料集』(復刻増補版)の現代的意義」におけるフロア発言を活字化したもので, 同シンポジウムに参加する機会をえた。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究成果として挙げた松山大学でのシンポジウムは, 民法・法制史分野から高名な研究者が集まったもので, フロア発言ながら時間を割いていただいたことは貴重な経験となった。その後, 関連する論稿を発表し, 教育でもその成果を還元したいと考えている。なお, 進路指導委員会の委員としてインターンシップ担当となったが, その事前事後レポートの添削に携わるとともに, 全学連絡会議の委員となった。

田北 俊昭

(1) 研究成果

・研究発表

「地域ブランド経済・経営学の重要性とその適用について」, 夏季地域科学セミナー, 東北大学川渡セミナーハウス(上智大・筑波大・東京外国語大・東北大・日本大・弘前大・明海大・山形大)

・外部資金

文部科学省科学研究費の挑戦的萌芽的研究「地域ブランドに関する都市・地域学的研究」

(2) 教育, 地域連携等の活動

○担当科目

都市経済と情報(1年), 基礎演習(2年), 地域科学(2年), 経済情報科学(2年後期), 経済情報科学(3年前期), 経済情報科学演習(3・4年), 社会経済システム特論・特別演習と特別研究(大学院)

○社会連携について

「地域ブランドに関する都市・地域学的研究」に関する実践的な活動として, 上山・米沢に続いて, 今年で3年連続して企画立案(共催)を行った。研究成果をもとに地方創生のメカニズムを構築する農林水産省, 山形県, 地方自治体と連携した。地域ブランド構築に関する実践版である。山形県の製糸会社は, 万国博覧会で褒章を受賞するほどの実績があり, 明治から現在(現在は1社残る)に至るまで実績を積み上げている。県内の高度な技術を有する繊維業の産業集積は国内有数であり, 米沢は世界のテキスタイルの中心地のひとつである。シルクシンポジウムについては, 国内のシルク・繊維, 和洋ファッション業界の発展を目的として, 山形県蚕糸業会・大日本蚕糸会, 全国織物産地買継商業組合連合会の業界団体と連携し, 農林水産省大臣秘書官・補佐官

ないし山形県担当部局代表者の派遣を行っていただいた。

○シルクシンポジウム in やまがた2013

「女性の美しさと羽前やまがたの絹ファッションと食・まちづくりー世界最高級の羽前エキストラシルク文化を生かした米沢織・鶴岡織等と地域ブランド戦略」, 千歳館 (主催: 米沢織物商業協同組合・鶴岡織物工業協同組合・一般社団法人山形県蚕糸業会 山形大田北研究室・地域ブランド経済研究所準備室 共催: 全国織物産地買継商業組合連合会 協力: きもの de やまがた実行委員会・山形商工会議所・山形県観光物産協会・大沼・千歳山萬松寺)

- ・山形のシルク文化を世界ブランド化するためのアクションになるように、各階の代表(五十嵐希(ミスワールド2012日本代表)さん, 矢嶋孝敏(きものやまと会長))を招くとともに、国や県の担当者(丹野和彦(山形県庁商工労働観光部商業・まちづくり振興課長)白井正人(農林水産省生産局農産部地域作物課地域対策官))を交えて、県内外のシルク関係者と今後の方向性について議論を行った。併せて、1) 山形の料亭文化と食を楽しむ～「あこや姫」の萬松寺と都の憧れ「日本一のあこや松」(山形), 2) 「やまがたのシルク恋伝説～糠福大明神から鶴の恩返し・白竜湖恋伝説」(上山・南陽)を企画した。県内芸術文化関係者, 山形大学教育文化学部音楽科, 南陽市夕鶴の里記念館各種商工業者との協力のもとすすめられた。地域ブランド事業についての産学連携事業において, シルクシンポジウム in やまがた2013の開催について, 山形新聞社(2013年9月)で取り上げられた。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- ・地域ブランドに関する研究活動(理論と実証分析)に加えて, 実践的な地域創生プログラムを実施した。

立松 潔

(1) 研究成果

◆論文

「アベノミクスと地域経済」(『山形県の社会経済・2013年 年報第26号』山形県経済社会研究所発行, 2013年11月20日, 14-19頁)

◆テキスト(共著)

山形大学基盤教育院編集『なさねば成らぬ! 新版』山形大学出版会, 2014年2月28日

(2) 教育, 地域貢献等の活動

■担当授業の紹介

○基盤教育科目

スタートアップセミナー

「Jリーグと地域社会」(教養セミナー)

○専門教育科目

「日本経済論」前・後期

「地域経済論」後期

- 「日本経済論演習」前・後期（卒論指導も含む）
- オムニバス科目（他の教員と共同で担当）の専門教育科目
「公務員対策セミナー」講義，論文演習担当（計3回）
- 大学院
「日本産業構造分析特論Ⅰ」
「日本産業構造分析特別演習」
「特別研究Ⅱ」
- 地域貢献活動
- 審議会委員等
山形県労働委員会（会長）
山形市地産地消の店認定委員会（委員長）
寒河江市地域づくり推進委員会（委員長）
寒河江市地域振興審議会（会長）
山形市国民健康保険運営協議会委員
- 出張講義等：
山形県立山形中央高校 2013年12月11日（水）
テーマ：ドルと円—おカネの秘密

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成25年度はアベノミクスの地域経済への影響についての研究に取り組み，山形県経済社会研究所の年報にその一部を発表することができた。またその成果を担当する授業（日本経済論，地域経済論）にも盛り込んだ。また，スタートアップセミナーのガイドブック『なさねば成らぬ！新版』の編集と執筆にも携わり，平成26年度の授業に間に合うよう発行することができた。大学院では学位論文について学生1名の正指導教員として修士論文等の指導を行った。

溜川 健一

(1) 研究成果

[論文]

“How Does the No-Ponzi Game Condition Work in an Optimal Consumption Problem?,” *Cogent Economics & Finance*, Vol. 1, pp.42-44.

「動学的確率的一般均衡モデルの動向：モデル構築を中心に」福島大学紀要『商学論集』第81巻第3号，pp. 43-60. 福田慎氏（福島大学）との共著。

(2) 教育，地域連携等の活動

特になし。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

今年度以降，教育，地域連携および研究に精を出し，山形大学に貢献できるよう頑張ります。

戸室 健作

(1) 研究成果

[著書]

- 黒田兼一・小越洋之助編『公務員改革と自治体職員—NPMの源流・イギリスと日本』自治体研究社, 2014年3月30日
戸室担当: 「自治体委託労働者の労働実態と労働組合の取り組み」120-130頁, 「イギリス地方自治体職場における間接雇用の現況」194-203頁

[論文]

- 「イギリス地方自治体職場における間接雇用の現況」『季刊自治と分権』53号, 2013年10月10日, 95-102頁。
- 「連合山形寄付講座の創設—山形大学「労働と生活」—」『山形県の社会経済・2013年 年報第26号』山形県経済社会研究所, 2013年11月30日, 38-48頁。

[その他]

- 連合山形『寄付講座講義録2012』, 2013年
戸室担当: 「まとめ「労働組合と協同組合を取り巻く社会」」96-105頁。

(2) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 専門教育科目: 社会政策論, 社会保障論, 労働と生活, 社会政策論演習, 卒業論文指導, 法経政策総合講座Ⅲ (オムニバス1回担当)
- 基盤教育: 労働問題を考える (教養セミナー)
- 大学院: 社会政策特論Ⅱ
- その他: 公務員対策講座の講義と論文演習

[学会活動]

- 日本労働社会学会幹事 (研究活動担当, 労働調査等プロジェクト委員会担当)

[地域連携等]

- 連合山形寄付講座「労働と生活」担当
- 自治労連・地方自治問題研究機構「人事・給与研究会」委員
- 山形大学職員組合人文学部支部会計監査委員
- 秋田県立本荘高校での出張講義。講義内容は「非正社員増大の実態と背景」(2013年7月11日 11:20-12:30と13:40-14:50の2回講義する)
- 記事「沖縄の貧困率 全国最悪」『沖縄タイムス』2013年12月14日31面
- 記事「貧困率29% 全国最悪」『琉球新報』2013年12月15日1面, 「低賃金はびこる」同28面, 「連鎖 出口見えず」同29面
- 記事「社説 貧困率最悪 雇用を改善し悪循環断て」『琉球新報』2013年12月17日2面

(3) 研究・教育活動に関するコメント

地方自治体が外部委託した職場の労働状況や労働組合の取り組みについてインタビュー調査を

重ね、共著本にまとめることができた。また、当該書籍の戸室執筆部分に加筆した調査報告を、2014年3月に山形大紀要に投稿した。

中島 宏

(1) 研究成果

[著書]

- ・共訳書：山元一・只野雅人編訳『フランス憲政学の動向 法と政治の間』（慶應大学出版会、2013年8月）：パトリック・ヴァクスマン「公的自由の制限を可能にする新たな技術——スペクタクルの社会における自由の保護について」281～306頁
- ・分担執筆：志田陽子編『映画で学ぶ憲法』（法律文化社、2014年3月）：①「突きつけられる日本の選挙の実態」42～45頁、②「『総意』として維持される天皇の『不自由』」46～49頁、③「『曇りなき眼で見定める』—ハンセン病と差別」152～155頁

[翻訳]

- ・ミシェル・ヴィヴィオルカ「倫理と人権：政治への回帰？」山形大学法政論叢57号（2013年11月）1～28頁

[その他]

- ・「フランス宗教法文献目録（4）」宗教法32号（2013年10月）293～308頁
- ・「2013年学界回顧・フランス法」法律時報85巻13号（2013年12月）306～308頁

[研究報告]

- ・「東大ポポロ事件」憲法判例×歴史研究会（2013年11月29日、慶應義塾大学三田キャンパス）

(2) 教育、地域連携等の活動

[教育]

- ・専門：憲法Ⅰ，比較憲法，憲法演習Ⅰ，公務員対策セミナー
- ・基盤：スタートアップセミナー，日本国憲法
- ・大学院：人権論特論Ⅱ，人権論特別演習
- ・非常勤：東北文教大学「くらしと憲法」，東北文教大学短期大学部「日本国憲法」
- ・学生表彰：学長表彰（顧問担当の模擬裁判実行委員会），学部表彰（演習担当の学生）

[地域連携]

- ・審議会：山形市個人情報保護制度運営審議会副会長，天童市情報公開・個人情報保護審査会委員
- ・講演会：①第20回憲法を考える山形集会「今解かれようとしている3つの縛り——立憲主義・硬性憲法・平和主義——」（2013年5月3日，遊学館），②山形いずみ会教養セミナー「日本国憲法について考える」（同年7月22日，山形国際ホテル），③山形県教職員組合山形地区支部学習会「最近の憲法改正論議の問題点」（同年7月26日，山形国際ホテル），④山形革新懇学習会「特定秘密保護法の問題点」（2014年2月8日，霞城セントラル）
- ・取材協力：YBC山形放送2013年7月1日YBC news every.「ネット選挙解禁 若者たちは」，読売新聞2013年7月28日山形版「検証13参院選 ネット選挙効果は？」

- 出張講義：福島県立福島南高校（2013年10月10日），山形県立楯岡高校（2014年2月19日）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

様々な仕事をすることができた。昨年度来翻訳の依頼が相次ぎ、さながら「翻訳責め」の様相を呈したが大変勉強になった。また、憲法改正論議の活発化や参議院選挙の影響で、講演依頼や取材も相次いだ。さらに、担当する団体や学生が表彰を受けたことも有難かった。感謝申し上げたい。

西岡 正樹

(1) 研究成果

「公務執行妨害罪における『暴行』の程度」別冊ジュリスト221号『刑法判例百選Ⅱ〔第7版〕』（2014年）232-233頁

(2) 教育・地域連携等の活動

〔教育〕

担当授業科目

専門教育：刑事法基礎（刑法担当），総合講座Ⅱ（法律），刑法Ⅰ，刑法Ⅱ，刑法演習Ⅱ

〔地域連携等〕出張講義 福島県立福島東高等学校

(3) 研究・教育活動に関するコメント

前年度同様に諸先生方の協力の下で教育・研究活動に専心することができた。教育活動としては、刑法演習Ⅱにおいて置賜学院への施設見学を行った。研究活動としては、専門とする刑事責任論に関して、科研費補助金を得て、累犯加重規定と責任概念に関する研究を継続して行った。

西平 直史

(1) 研究成果

西平：プル方式を用いたサプライチェーンの解析と一改良法，山形大学人文学部研究年報，第11号，pp.59-67（2014）

(2) 教育，地域連携等の活動

教育 学部 経営システム，応用情報処理，情報・システム論演習

基盤教育 情報処理，人間社会と観光経営

地域連携活動 山形仙台圏交流研究会

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では，従来から進めているサプライチェーンシステムのむだ時間システムを使った解析に関する研究を行い，成果の一部を論文として発表した。

教育面では，学部と基盤教育の授業を担当した。また，大学院生の副指導教員として論文指導

も行った。

地域連携活動は山形仙台圏交流研究会のメンバーとして参画した。

藤田 稔

(1) 研究成果

「電子書籍の販売をめぐる競争法上の問題の考察」『競争法の理論と課題—独占禁止法・知的財産法の最前線 根岸哲先生古稀祝賀』(有斐閣 2013年9月) 649-664頁

(2) 教育, 地域連携等の活動

「経済法1」「知的財産法」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権(法学)」「専門基礎演習」と「総合講座1(公共政策)」の1コマを担当。(その他, 東北学院大学で, 非常勤講師を務めた。)

山形労働局で個別労働紛争調整委員として, 労働紛争の解決のあっせんを行った。

独占禁止政策協力委員として, 独占禁止政策のあり方について, 公正取引委員会に対して, 意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として, 弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として, 学会の運営に従事した。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

特にない。

洪 慈乙

(1) 研究成果

- 洪 慈乙・内藤修 広共著「公的主体の会計を包摂しうる会計理論の構築をめざして——国立大学法人会計を手掛かりとして——」, 東北大学経済学会研究年報『経済学』Vol. 74 No. 2, pp. 1-15, 2014年3月。

(2) 教育, 地域連携等の活動

- 学部担当授業
 - 専門科目: 会計学, 財務会計, 会計学演習, 専門基礎演習
- 地域連携
 - 観光庁 未来を切り拓く「次世代旅館・ホテル経営者育成プログラム」の会計部門担当講師
 - まちづくり研究会・関西学院大学での研究会参加

松本 邦彦

(1) 研究成果

なし。

(2) 教育, 地域連携等の活動

通常の講義・演習については略しまして…。

- 昨年度までと同様, 人間文化学科の山崎彰先生, さらに今年からは法経政策学科の山本匡毅先生とともに「地域づくり特別演習(二)」を担当し, 学生の研修にあたっては山形市内の市民団体に多大な御協力をいただきました。
- 8月3日(土)山形大学人文学部オープンキャンパス/模擬講義「日本のこれからのために昔のことを考える:日本の外交と戦争」。
- 8月14日, 20日, 宮城県立向山高校の2013年度アカデミックインターンシップ「国際関係」班を受入れ。山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーを訪問。
- 9月19日(木)山形大学人文学部にて, 福島県立原町高校の生徒の皆さんに模擬講義「辺境から世界に挑戦して:近代日本の外交史から未来を考える」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2012年度から三ヶ年計画の科研費をいただき, 第一年度は主に戦前までの在日コリアンに対する「協和事業」について, 第二年度の2013年度は現代の地方自治体の施策調査とおこなってきましたが, 残念ながら発表にまで至りませんでした。

丸山 政己

(1) 研究成果

- ・(論文)「国連安全保障理事会と国際法の「立憲化」—法的コントロールの問題を中心に—」『世界法年報』第33号(2014年3月)65-93頁
- ・(判例評釈)「カディ事件 欧州司法裁判所2008年9月3日大法廷判決」杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例50【第2版】』(2014年3月)178-181頁
- ・(研究報告)「国連安全保障理事会と国際法の「立憲化」—法的コントロールの問題を中心に」2013年世界法学会研究大会, 2013年5月(於 帝京大学板橋キャンパス)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・担当科目:国際法, 国際組織法, 国際法演習, 総合講座I(公共政策), スタートアップセミナー, 国際法入門(基盤)
- ・人文学部教育委員会委員(教務(正)), 山形大学職員組合人文支部執行役員(会計), 山形大学法学会運営委員(会計)
- ・福島県立喜多方高校出張講義「グローバル・イシューズと国際連合」(2013年10月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成25年度は、紛うことなき激動の年であった。「ピンチ・ヒッター」として急きょ務めた法経政策学科教務委員の仕事は、予想以上に大変であった。無事に任を全うできたのは、星野学科長をはじめとする大半の先生方の暖かい支援と協力があったからに他ならない。改めて感謝申し上げます。また私事ではあるが、4月に母を病で亡くした。教務をしながら山形と福岡を何度も往復するのはなかなか骨が折れたが、ご多分に漏れず「人は死んでからその価値を思い知らされる」を痛感する一年であった。今、まがりなりにも研究者の末席に加わることができているのは、まさに母あったればこそなのである。

研究面でも、世界法学会（5月！）で報告させていただき、『世界法年報』に論文として（出来はさておき）掲載することができた。また、『国際法基本判例50』という定評ある判例テキストの第2版として「カディ事件」を執筆した。カディ事件を改めて検討することで研究面での新たな発見があったし、国際法の初学者に複雑で難解な事件の概要と意義をどうすれば分かりやすく理解してもらえるかを考える貴重な経験であった（それに成功しているかどうかはともかくとして…）。

安田 均

(1) 研究成果

• 論文

「第2期吉村県政への期待」『山形県の社会経済・2013年』

• 研究会報告

「複雑労働について」SGCIME 春合宿（八王子セミナーハウス，14/ 3/29）

(2) 教育，地域連携等の活動

A. 授業

経済原論（4単位），市場と組織（2単位），専門基礎演習（2単位），「(基幹科目) 市場と人間の生活」（2単位），「(教養セミナー) 格差を考える」，学部共通科目「地域社会論」（2単位，非常勤講師の紹介，毎回のレポート及び単位評価担当）（別に大学院担当1名）。

公務員講座（春休み，講義1コマ，論作文2コマ）。

宮城学院女子大学「経済社会特論」（2単位）。

B. 委員会活動

（基盤教育）授業改善作業部会（12. 4-）。基幹科目ディレクター（13. 4-）

C. 地域連携

• 出張講義

福島県立橘高等学校（10/28），山形県立新庄北高等学校（11/11），宮城県立仙台東高等学校（14, 2/13）

• 三大学合同ゼミ（講師として参加）

「教育の崩壊--苦境に立つ教師--を考える」（東北学院大学，7/13）。

「それをお金で買いますか!？」（宮城学院女子大学，11/30）

- ・解説記事「経済指標の解説」(連合山形『春季生活闘争方針』,2014年2月)・年報報告会「吉村県政第2期目への期待」(大手門パルズ,12/18)
- ・人文学部と山形県村山総合支庁との共同研究「山形・仙台圏交流研究会」に毎月参加。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

最近、講義では、オンラインでなく教室での復習、確認に時間を割くよう務めている。

学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆、あるいは共同調査への参加は研究の門口を広げてくれるので、時間の許す限り引受けたい。

山口 昌樹

(1) 研究成果

論文

- ・「マレーシアの債券市場と外国銀行－競争構造の実証分析」『証券経済研究』, 第83号, pp.91-107
- ・「インドネシアにおけるインフラ金融と邦銀－ネットワーク分析による観察－」『東北経済学会誌』, 第66巻

研究ノート

- ・「中国における邦銀の貸出行動－シンジケートローンの実証分析－」『中国経済研究』第10巻第2号, pp.44-60

寄稿

- ・「取引先の海外進出支援が本格化～機能を拡充する地域金融機関～」『金融ジャーナル』2013年4月号, pp.82-85
- ・「アジアの成長と邦銀の関わり」『2014年版金融時事用語集』金融ジャーナル社

その他

- ・「タイにおける関連融資」山形大学人文学部法経政策学科 Discussion Paper Series, 2013-E01 学会報告

- ・「インドネシアにおけるインフラ金融と邦銀」日本金融学会2013年秋季大会, 名古屋大学, 2013年9月21日

研究会報告

- ・「銀行同盟－論点整理」九州大学経済学研究院, リサーチワークショップ, 2013年7月13日
- ・「金融分断と信用緩和」欧州金融研究会, 山形大学, 2013年9月2日

講演

- ・「地方銀行の国際業務－第三の矢」アジア太平洋研究所, 2014年2月27日

(2) 教育, 地域貢献等の活動

教育

- ・担当授業: スタートアップセミナー, 金融論, 国際金融論, 証券経済論, 国際金融論演習
- ・地域貢献

- 東北税理士会山形支部の集中講義「為替相場と日本経済」
- 出前講義 新庄南高校 2013年9月19日 「為替相場と日本経済」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

腰を据えて研究に打ち込むことができた。人文学部の教職員の方々に感謝したい。

山本 匡毅

(1) 研究成果

【論文等】

- 山本匡毅 (2013) 「日本における航空機産業の動向－地域中小産業のネットワーク化と行政の支援がポイント－」『Suruga Institute Report』第123号, pp.22-25。
- 山本匡毅 (2013) 「中小企業のための医療機器産業への展開法―一般産業部品から医療機器部品への展開―」『アクセス埼玉』第200号, pp. 1-6。
- 山本匡毅 (2014) 「地域の資金的循環と産業復興―石巻市を事例として―」, 一般財団法人統計研究会『「震災復興に関する地域経済的アプローチ」調査報告書』pp. 4-13。
- 山本匡毅 (2014) 「中堅・中小企業の医療機器産業等への参入方法」, 機械振興協会経済研究所『医療機器産業におけるサプライヤーシステム』pp.118-124。

【学会発表】

- 山本匡毅「航空機産業の拡大と新規参入に向けた企業間連携」産業学会第51回全国研究会 (2013年6月8日, 専修大学神田校舎)

(2) 教育・地域連携等の活動

【教育】

(学部) 地域政策論, 地域政策論演習, 地域づくり特別演習 (一), 地域づくり特別演習 (二), 公務員対策セミナー (論作文)

(基盤教育) 地域と産業 (経済学), スタートアップセミナー

【地域連携等】

[委員・研究員等]

- 一般財団法人機械振興協会経済研究所「医療機器産業におけるサプライヤーシステムに関する調査研究委員会」委員 (2013年6月～2014年3月)
- 法政大学比較経済研究所兼任研究員 (2013年4月～2014年3月)
- 公益財団法人川崎市産業振興財団新産業政策研究所客員研究員 (2013年4月～現在)
- 山形大学東北創生研究所研究員 (2013年6月～現在)
- 山形大学山形・仙台交流圏研究会への参加 (2013年4月～現在)

[講演]

- 岩手県立大学総合政策学部アイーナキャンパス講座「医療機器産業の取引関係と産業振興―需要構造アプローチからの示唆―」(2013年12月16日, 岩手県立大学アイーナキャンパス)
- 山口県医療・福祉関連ものづくりセミナー「期待される医療機器産業と機械製造業の拡大戦略」

(2014年2月10日, セントコア山口)

- 村山インダストリー倶楽部医療機器部会 (山形県村山総合支庁) 第4回医療機器産業参入セミナー「中小企業における医療機器参入戦略」(2014年2月20日, 村山総合支庁)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

着任一年目であったことから, 山形県及び東北地方の特性を理解することに力点を置きつつ, 教育・研究・地域連携等を行った。特に学生教育と地域貢献に注力した。